



エグゼクティブ・
サマリー
グローバル・
イノベーション・
インデックス
2025



WIPOの旗艦報告書グローバル・イノベーション・インデックス (GII) 第18版へようこそ。本インデックスは139の経済圏におけるイノベーションの動向を分析し、政府、産業界、研究者、そしてイノベーション・エコシステム構築に関心を持つ世界中のすべての方々のための有益なリソースを提供しています。また、ベンチャー・キャピタルのデータを初めて統合して世界のトップ100イノベーション・クラスターをランク付けして、世界で最も活気あるイノベーション・エコシステムにさらに焦点を当てています。



ダレン・タン
WIPO 事務局長

2025 年版 GII の概要

2025 年版グローバル・イノベーション・インデックスは、139 の経済圏におけるイノベーション・エコシステムを包括的に分析し、投資パターン、技術の進歩、導入率、社会経済的影響を通じて、世界のイノベーション動向を追跡しています。

2025年の世界のイノベーション・リーダー

地域別イノベーション・ランキング上位3経済圏

中南米・カリブ海

- 1 チリ↑
- 2 ブラジル↓
- 3 メキシコ

北米

- 1 米国
- 2 カナダ

サハラ以南 アフリカ*

- 1 南アフリカ
- 2 ボツワナ
- 3 セネガル

ヨーロッパ

- 1 スイス
- 2 スウェーデン
- 3 英国

北アフリカ・ 西アジア*

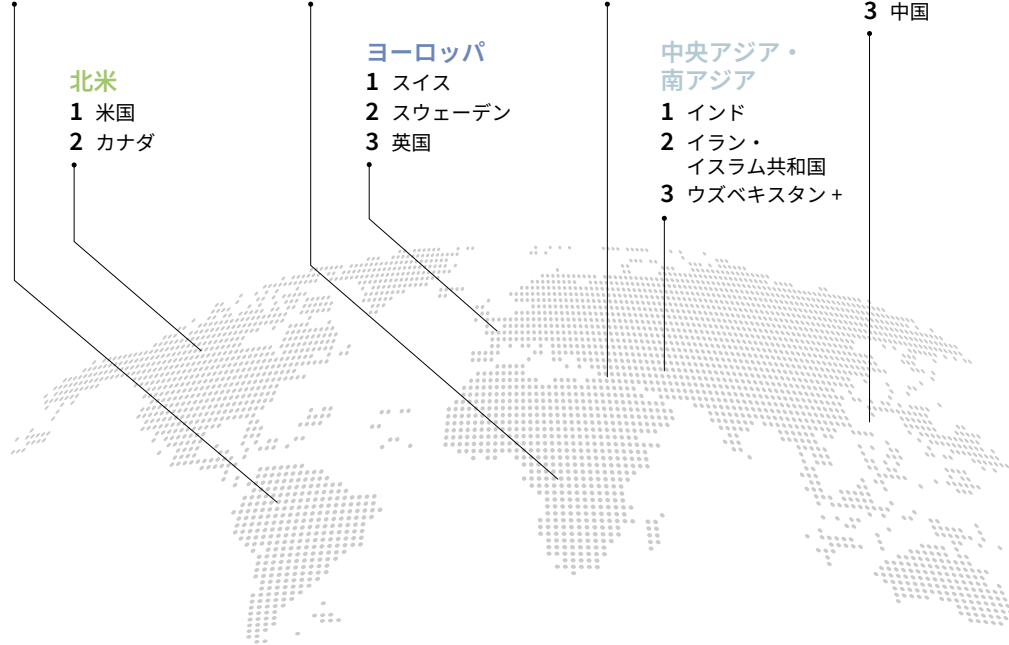
- 1 イスラエル
- 2 アラブ首長国連邦
- 3 トルコ

中央アジア・ 南アジア

- 1 インド
- 2 イラン・
イスラム共和国
- 3 ウズベキスタン+

東南アジア・ 東アジア・ オセアニア

- 1 韓国↑
- 2 シンガポール↓
- 3 中国



所得グループ別イノベーション・ランキング上位3経済圏

高所得

- 1 スイス
- 2 スウェーデン
- 3 米国

高中所得

- 1 中国
- 2 マレーシア
- 3 トルコ

低中所得

- 1 インド
- 2 ベトナム
- 3 フィリピン

低所得グループ[△]

- 1 ルワンダ
- 2 トーゴ
- 3 ウガンダ

+ は2025年に新たにトップ3入りした国です。

↑↓ は2024年と比べてトップ3のランキングの変化(上昇または下落)を表します。

* サハラ以南アフリカ(SSA)の上位3経済圏(島嶼国を除く)。全経済圏を含めた同地域のトップ5は、モーリシャス(1位)、南アフリカ(2位)、セーシェル(3位)、ボツワナ(4位)、セネガル(5位)です。

* 北アフリカ・西アジア(NAWA)の上位3経済圏(島嶼国を除く)。全経済圏を含めた同地域のトップ4は、イスラエル(1位)、キプロス(2位)、アラブ首長国連邦(3位)、トルコ(4位)です。

△ 低所得グループの上位3経済圏(島嶼国を除く)。全経済圏を含めた低所得グループのトップ4は、ルワンダ(1位)、トーゴ(2位)、マダガスカル(3位)、ウガンダ(4位)です。

出典: グローバル・イノベーション・インデックス・データベース、WIPO、2025年

2025年のグローバル・イノベーション・インデックス・ランキング

GII 順位				GII 順位			
↓	経済圏	所得 グループ 内順位	地域別 順位	↓	経済圏	所得 グループ 内順位	地域別 順位
1	スイス	66.0	1	71	コロンビア	28.5	18
2	スウェーデン	62.6	2	72	コスタリカ	28.4	19
3	米国	61.7	3	73	クウェート	28.2	49
4	韓国	60.0	4	74	モルドバ共和国	27.4	20
5	シンガポール	59.9	5	75	セーシェル	27.2	50
6	英国	59.1	6	76	チュニジア	27.0	6
7	フィンランド	57.7	7	77	アルゼンチン	26.8	21
8	オランダ王国	57.0	8	78	モンゴル	26.7	22
9	デンマーク	56.9	9	79	ウズベキスタン	26.5	7
10	中国	56.6	1	80	ペルー	26.5	23
11	ドイツ	55.5	10	81	カザフスタン	26.3	24
12	日本	53.6	11	82	パナマ	25.9	51
13	フランス	53.4	12	83	ジャマイカ	25.2	25
14	イスラエル	52.3	13	84	バルバドス	25.1	52
15	香港(中国)	51.5	14	85	ベラルーシ	25.1	26
16	エストニア	51.1	15	86	エジプト	24.7	8
17	カナダ	51.1	16	87	ボツワナ	24.6	27
18	アイルランド	50.4	17	88	ブルネイ・ダルサラーム	24.5	53
19	オーストリア	50.1	18	89	セネガル	23.8	9
20	ノルウェー	49.2	19	90	レバノン	23.6	10
21	ベルギー	48.5	20	91	ナミビア	23.5	28
22	オーストラリア	48.0	21	92	ボスニア・ヘルツェゴビナ	23.4	29
23	ルクセンブルグ	47.3	22	93	スリランカ	22.9	11
24	アイスランド	47.0	23	94	アゼルバイジャン	22.9	30
25	キプロス	45.5	24	95	カーボベルデ	22.6	12
26	ニュージーランド	45.5	25	96	キルギス	22.6	13
27	マルタ	45.4	26	97	ドミニカ共和国	22.6	31
28	イタリア	44.9	27	98	エルサルバドル	22.2	32
29	スペイン	44.6	28	99	パキスタン	22.1	14
30	アラブ首長国連邦	44.2	29	100	カンボジア	22.0	15
31	ポルトガル	43.9	30	101	ガーナ	21.9	16
32	チェコ共和国	42.0	31	102	ケニア	21.4	17
33	リトアニア	40.8	32	103	パラグアイ	21.4	33
34	マレーシア	40.6	2	104	ルワンダ	21.1	1
35	スロベニア	40.1	33	105	ナイジェリア	21.1	18
36	ハンガリー	40.0	34	106	バングラデシュ	21.0	19
37	ブルガリア	39.1	35	107	ネパール	20.2	20
38	インド	38.2	1	108	タジキスタン	20.2	21
39	ポーランド	37.7	36	109	ラオス人民民主共和国	20.1	22
40	クロアチア	37.7	37	110	コートジボワール	19.7	23
41	ラトビア	37.5	38	111	ボリビア多民族国	19.6	24
42	ギリシャ	37.4	39	112	ザンビア	19.6	25
43	トルコ	37.2	3	113	エクアドル	19.5	34
44	ベトナム	37.1	2	114	トリニダード・トバゴ	19.3	54
45	タイ	36.7	4	115	アルジェリア	18.9	35
46	サウジアラビア	36.0	40	116	カメルーン	18.2	26
47	スロバキア	35.5	41	117	トーゴ	18.1	2
48	カタール	34.6	42	118	ベナン	17.8	27
49	ルーマニア	34.3	43	119	ホンジュラス	17.7	28
50	フィリピン	33.6	3	120	マダガスカル	17.6	3
51	チリ	33.1	44	121	タンザニア連合共和国	17.5	29
52	ブラジル	32.9	5	122	ミャンマー	17.3	30
53	モーリシャス	32.5	6	123	グアテマラ	17.1	36
54	セルビア	31.7	7	124	ウガンダ	17.1	4
55	インドネシア	31.3	8	125	マラウイ	16.0	5
56	ジョージア	31.2	9	126	ブルキナファソ	15.9	6
57	モロッコ	31.1	4	127	ブルンジ	15.8	7
58	メキシコ	30.5	10	128	モザンビーク	15.4	8
59	アルメニア	30.5	11	129	ジンバブエ	15.4	31
60	ロシア連邦	30.3	45	130	ニカラグア	15.4	32
61	南アフリカ	30.1	12	131	モリタニア	15.4	33
62	バーレーン	30.0	46	132	レソト	14.9	34
63	北マケドニア	29.8	13	133	ギニア	14.9	35
64	モンテネグロ	29.8	14	134	エチオピア	14.4	9
65	ヨルダン	29.7	5	135	マリ	14.0	10
66	ウクライナ	29.7	15	136	ベネズエラ・ボリバル共和国	13.7	21
67	アルバニア	29.6	16	137	コンゴ	13.6	36
68	ウルグアイ	28.8	47	138	アンゴラ	13.0	37
69	オマーン	28.7	48	139	ニジェール	11.9	11
70	イラン・イスラム共和国	28.5	17				

低所得
低中所得
高中所得
高所得

サハラ以南アフリカ
中央アジア・南アジア
東南アジア・東アジア・オセアニア
北アフリカ・西アジア

中南米・カリブ海
北米
ヨーロッパ

注：世界銀行の分類では、ベネズエラ(ボリバル共和国)は2021年まで高中所得国に分類されていましたが、その後はデータが利用できないため未分類になっています。

出典：グローバル・イノベーション・インデックス・データベース、WIPO、2025年

所得水準別のイノベーション・パフォーマンス、2025年

高所得グループ	高中所得グループ	低中所得グループ	低所得グループ
経済発展のレベルから予想される以上のパフォーマンス			
スイス スウェーデン 米国 韓国 英国 フィンランド オランダ王国 デンマーク ドイツ 日本 フランス イスラエル エストニア カナダ	中国 タイ ブラジル インドネシア 南アフリカ ウクライナ	インド ベトナム フィリピン モロッコ ヨルダン チュニジア ウズベキスタン セネガル	ルワンダ マダガスカル マラウイ ブルンジ
経済発展のレベルに見合ったパフォーマンス			
シンガポール 香港(中国) アイルランド オーストリア ノルウェー ベルギー オーストラリア アイスランド キプロス ニュージーランド マルタ イタリア スペイン アラブ首長国連邦 ポルトガル チェコ共和国 リトアニア スロベニア ハンガリー ブルガリア ポーランド クロアチア ラトビア ギリシャ チリ バルバドス	マレーシア トルコ モーリシャス セルビア ジョージア メキシコ アルメニア 北マケドニア モンテネグロ アルバニア イラン・イスラム共和国 コロンビア モルドバ共和国 モンゴル ペルー ジャマイカ ボツワナ ナミビア エルサルバドル	エジプト レバノン スリランカ カーボベルデ キルギス パキスタン カンボジア ガーナ ケニア ナイジェリア バングラデシュ ネパール タジキスタン ラオス人民民主共和国 コートジボワール ザンビア カメルーン ベナン タンザニア連合共和国	トーゴ ウガンダ ブルキナファソ モザンビーク
上記以外の経済圏			
ルクセンブルグ サウジアラビア スロバキア カタール ルーマニア ロシア連邦 バレーン ウルグアイ オマーン クウェート セーシェル パナマ フルネイ・ダルサラーム トリニダード・トバゴ	コスタリカ アルゼンチン カザフスタン ベラルーシ ボスニア・ヘルツェゴビナ アゼルバイジャン ドミニカ共和国 パラグアイ エクアドル アルジェリア グアテマラ	ボリビア多民族国 ホンジュラス ミャンマー ジンバブエ ニカラグア モリタニア レソト ギニア コンゴ アンゴラ	エチオピア マリ ニジェール

注: 世界銀行の分類では、ベネズエラ(ボリバル共和国)は2021年まで高中所得国に分類されていましたが、その後はデータが利用できないため未分類になっています。

出典: グローバル・イノベーション・インデックス・データベース、WIPO、2025年

主なポイント

1. 2024年、イノベーション投資はベンチャー・キャピタル投資を除いて概ね好調、しかし、イノベーション投資の伸びは歴史的に低い水準に

2024年、イノベーション投資はベンチャー・キャピタル投資を除いて概ね好調でした。しかしながら、イノベーション投資の伸びは歴史的に低い水準にあります。2023年の景気後退を経て、2024年にはイノベーション投資に回復の兆しが見られました。しかしながら、この回復は依然として脆弱な状態にあり、大半のイノベーション投資は長期的な成長トレンドを下回っています。

科学およびイノベーションへの投資

	科学論文数	研究開発投資		ベンチャー・キャピタル		国際特許出願数
		世界合計	研究開発支出の 上位企業	取引件数	取引額	
短期	5.6%	2.9%*	3.2%*	-4.4%	7.7%	0.5%
	2023→2024	2023→2024	2023→2024	2023→2024	2023→2024	2023→2024

技術の進歩

	コンピューターの計算能力	再生可能エネルギーのコスト		電池価格	ゲノム解析 コスト	医薬品の 承認
	ムーアの法則	グリーン・ スーパー コンピューター	太陽光	風力		
短期	36.9%	65.7%	-12.4%	-3.4%	-20.1%	-11.1%* ↓ -18.8%
	2022→2024	2023→2024	2022→2023	2022→2023	2023→2024	2022→2024 2023→2024

技術の採用

	安全な 衛生設備	コネクティビティ		ロボット	電気自動車	高速鉄道網	がんの 放射線療法
		固定 ブロードバンド	5G				
短期	1.2%	6.3%	15.1%	9.7%	45%	5.1%	1.3%
	2023→2024	2023→2024	2023→2024	2022→2023	2023→2024	2022→2023	2023→2024

社会経済的影響

	労働生産性	貧困	平均寿命	地球温暖化
	短期	2.5%	-0.6%	0.7%
	2023→2024	2023→2024	2022→2023	2024

注記: 各指標の定義およびデータソースについては、本セクションの末尾に記載するデータに関する注記を参照してください。過去のデータは更新されている場合があり、昨年のグローバル・イノベーション・トラッカーと異なる可能性があります。数値は四捨五入して表示されています。推定値または不完全なデータにはアスタリスク (*) が付されています。ムーアの法則およびゲノム解析の費用に関する短期成長率は、2022~2024年の間のCAGRを指します。

出典: グローバル・イノベーション・インデックス・データベース、WIPO、2025年

以下に、グローバル・イノベーション・トラッカーで強調されているこれまでの傾向 (2013年~2024年) を記します。↑ 過去10年間の傾向を上回る成長が見られる; ↗ 成長は継続しているが、過去の傾向を下回っている; ↘ 減少傾向にある

↑ 2024年は全体的により前向きな見通し: 過去のGIIでは結果にばらつきが見られましたが、今年は全体的に良好な傾向がより一貫して確認できます。全体として、ベンチャー・キャピタル (VC) の取引件数、医薬品の新規発売、地球温暖化という3つの指標のみが、2024年に減少傾向にあります。

↑ 科学論文数の急増: 2024年の研究論文発表数は過去最高の200万本に達しました。これは中国の目覚ましい14%の成長と、インドの堅調な7.6%の増加に牽引されたものです。世界の科学は力強く進み続けています。

↗ 研究開発費は増加しているが、2010年以来最も低い伸び率に: 世界の研究開発費は2024年に2.9%増加すると予測されています。これは2023年の4.4%増から減速した数値であり、2010年以降で最も低い伸び率となります。公共の研究開発費は緩やかな回復を示しましたが、米国と中国以外の企業による研究開発費はわずか1.4%の増加に留まり、多くの高所得および中所得経済圏における勢いの弱さを反映しています。

➤ **企業の研究開発費は過去最高水準にあるものの、成長率は急激に減速:** 企業の研究開発費は2024年に過去最高の1兆3,000億米ドルに達しました。しかしながら、名目ベースの成長率は3.2%に減速し、実質ベースでは1%となりました。これは過去10年間の平均である8%を大きく下回る水準です。この対照はセクターにより異なる現れ方をしています。情報通信技術関連企業(特に人工知能を多用する分野)、ソフトウェア企業、製薬企業は研究開発予算を拡大しました。一方、自動車部門や消費財などの伝統的製造業の企業は、多くの場合企業収益の大幅な減少に応じて研究開発費を削減しました。

➤ **ベンチャー・キャピタル: 依然として低迷が続く(ただし、人工知能分野と米国を除く):** ベンチャー・キャピタル投資は、見せかけの回復を示しました。2024年に取引額は7.7%増加しました。これは主に米国を拠点とする大型取引と、生成AIへの投資急増によります。しかし、これらの投資を除くと、ベンチャー・キャピタルの価値は縮小したであろうと考えられます。さらに、ベンチャー・キャピタルの取引件数は世界的に4.4%減少し、3年連続で減少傾向が続いています。これは、限られた部門や地域以外では、投資家の慎重姿勢が持続していることを示しています。ベンチャー・キャピタルは、これまで非ICT分野や新興市場へと徐々に拡大してきましたが、現在では従来の中核領域、すなわち米国を拠点とするAIおよびICT関連の投資へと回帰しつつあるようです。これは、より広範な分野・地域への多様化に向けたこれまでの勢いを維持する機会が失われたことを示しています。

➤ **国際特許出願数は安定傾向だが、伸び率は低水準:** 2023年にまれに見る減少を記録した後、特許出願件数は2024年に0.5%の微増となりました。成長は依然として脆弱であり、国や地域間で大きな格差が見られ、出願件数の伸びは弱い状態です。

要約すると、真に隆盛しているのは科学論文数だけなのです。ほとんどのイノベーション投資はプラス成長を示していますが、その成長率は長期トレンドを下回っており、ベンチャー・キャピタルの取引件数は減少傾向にあります。

2. 技術は急速に進歩した一方、その普及には遅れ

2024年には、ほぼすべての分野で技術が進歩しましたが、新薬開発のみが後退しました。スーパーコンピューターの効率性と電池価格が著しい進歩を遂げ、先導的な役割を果たしました。しかしながら、風力発電とゲノム解析の分野における進展は、過去10年間の劇的な改善には及ばないものでした。

↑ **スーパーコンピューターが飛躍的に進歩:** グリーン・スーパーコンピューターの効率が60%超も飛躍的に向上し、計算能力とエネルギー効率の絶え間ない進歩を実証しました。

↑ **電池革命が加速:** 電池の価格が20%急落し、クリーンエネルギーへの移行が加速するとともに、電気自動車がより手に入りやすくなりました。

↑ **ムーアの法則は懐疑論者の予想を覆す:** トランジスタの生産数は37%増加し、多くの予測では衰退すると見込まれていたものの、10年にわたる傾向に驚くほど近い水準を維持しました。

➤ **太陽光発電の優位性:** 太陽光発電のコストは2010年以降90%低下し、現在では化石燃料よりも56%安価になっています。再生可能エネルギーのコストは今後も低下傾向が続く見込みです。

➤ **ゲノミクスの進歩:** ゲノム解析の費用は引き続き低下しており、個別化医療や生物学研究に新たな可能性をもたらしています。

❖ **医薬品開発における課題**: 医薬品の承認件数は 19% 減少しました。これは技術的進歩にもかかわらず、医薬品開発に固有の複雑さを反映した結果です。

総じて、技術の進歩は医薬品承認分野を除き、あらゆる分野で堅調に推移しており、特にコンピューティング技術とエネルギー技術において顕著な進展が見られます。

2024 年にはあらゆる指標において技術導入が拡大したものの、各指標はいずれも長期的な成長トレンドを下回りました。これは、技術の進歩が継続しているにもかかわらず、導入の勢いが減速していることを明確に示す兆候です。

↗ **電気自動車の普及**: 世界の電気自動車 (EV) の保有台数は 1,800 万台増加 (+45%) しましたが、主要市場では成長が著しく鈍化しており、中国や新興経済国が導入を牽引する傾向が強まっています。

↗ **5G が世界の半分に普及**: 5G は現在、世界人口の半数をカバーしていますが、その拡大ペースは鈍化しており、地域間におけるアクセス格差は依然として顕著なままです。

↗ **産業の進歩**: ロボット技術はここ数年で重要な進展を遂げていますが、高速鉄道は主に中国を中心に進展が見られるものの、その伸びは控えめであり、いずれの分野も 2023 年から 2024 年にかけては過去の傾向を下回るペースで推移しています。

↗ **健康とインフラ**: 安全な衛生設備とがん治療技術は着実に進展していますが、低所得経済圏においては依然としてインフラの不足が課題となっています。

要するに、技術の導入は幅広く進んでいるものの、その勢いが鈍化している兆候が明らかに見られます。高コスト、地域格差、市場の成熟化といった課題が生じており、基盤技術が急速に進歩し続けているにもかかわらず、逆風となっています。一方で、比較的新しい技術においては、初期の急速な拡大期を経て時間の経過とともに成長が鈍化するのとは当然のことです。基盤が拡大するにつれて、増加率は低下します (これが、成長率が過去の傾向を下回る理由です)。しかし、これが必ずしもすべてではありません。電気自動車を例に挙げると、普及率が中程度に達するよりずっと前に減速が生じます。補助金廃止や意識の変化など、他の阻害要因が影響しているのです。

3. イノベーションの社会経済的影響は、今回も概ね良好

イノベーションは、人々の福祉と経済パフォーマンスにおいて目に見える改善をもたらしており、新型コロナウイルス感染症による混乱からの回復は着実に軌道に乗っています。環境面での懸念はあるものの、全体的な影響は良好です。

↑ **生産性の飛躍的な向上**: 2024 年の労働生産性は 2.5% 上昇し、過去 10 年間の平均上昇率を上回りました。

↑ **平均寿命の伸長**: 世界の平均寿命は上昇傾向を続け、73 歳に達しました。新型コロナウイルス感染症の衝撃からの着実な回復は、医療システムの回復力と医療イノベーションの成果を示しています。

↗ **貧困削減は継続**: 極度の貧困状態にある人々は 2024 年に 8 億 1,700 万人に減少しました。これは 2004 年の総数の半分未満であり、人類が直面する最大の課題の 1 つにおける持続的な進展を示しています。

▼ **地球温暖化は継続**: 2024年の世界の気温は新たな記録を更新し、2025年には再びその記録を更新する見込みです。ただし、米国や欧州連合などの主要排出国では、CO₂排出量が減少傾向にあります。

イノベーションの社会経済的影響は、生産性、健康状態、貧困削減において著しい成果をもたらし、概ね好ましいものとなっています。気候変動に関する課題は依然として存在しますが、全体的な傾向としては、イノベーションが人類の福祉に有意義な恩恵をもたらしていることが示されています。

結論として、研究成果と技術革新は記録的な水準に達している一方で、投資動向は慎重さと選択性の高まりを示しています。今後の道筋においては、この新たな現実に対応することが求められます。すなわち、科学的発見の勢いを維持しつつ、利益の不均衡な分配や、イノベーションが解決に導くべき差し迫った環境課題に対処していくことが必要です。

4. 上位の経済圏はスイス、スウェーデン、米国、韓国、シンガポールで、中国もトップ10に加わる

- 2025年においても、スイス(1位)、スウェーデン(2位)、米国(3位)が、イノベーションの上位経済圏の座を維持しています。韓国(4位)は過去最高の順位を達成しました。シンガポール(5位)がトップ5を締めくくり、10のイノベーション指標において世界の上位に入っています。これらのトップ・パフォーマーには共通の強みがあります。それは高い研究開発集約度、世界水準の機関、強固な教育システム、そして非常に革新的な民間セクターです。
- 中国は初めてトップ10入りしました(10位)。知識および技術の産出においてスイスを上回り、研究開発費では2位、特許出願件数では首位に立っています。また、それに加えて、世界的にトップクラスのイノベーション・クラスターのいくつかを擁しています。
- 他にイノベーションのランクを上げた高パフォーマンスの国としては、日本(12位、2011年以来の最高順位)に加え、イスラエル(14位)、香港(中国)(15位)、エストニア(16位)が挙げられます。

5. インド、トルコ、ベトナム、フィリピン、インドネシア、モロッコ、アルバニア、イラン・イスラム共和国を中心とした中所得経済圏の一群は、2013年以降上昇を続け、サウジアラビア、カタール、ブラジル、モーリシャス、バーレーン、ヨルダンも2019年以降、ランクアップしています。

- 中国(10位)、インド(38位)、トルコ(43位)、ベトナム(44位)、フィリピン(50位)、インドネシア(55位)、モロッコ(57位)、アルバニア(67位)、そしてイラン・イスラム共和国(70位)は、GIIトップ70の中で、2013年以降ランキングを最も急速に上昇させた中所得経済圏です。
 - フィリピンは50位まで順位を上げ、トップ50入りしました。ハイテク製品の輸出では1位となっています。
 - モロッコ(57位)は、強力な工業デザイン、教育投資、無形資産の開発により、過去最高の結果を記録し、ランクを9つ上げました。
- 2019年以降、サウジアラビア(46位)、カタール(48位)、ブラジル(52位)、モーリシャス(53位)、バーレーン(62位)、ヨルダン(65位)が、最も急速にイノベーションのランクを上げています。
- 教育、デジタルインフラ、そして事業の洗練化への重点的な投資により、その他の中所得国および低所得国においても、着実に改善が進む国々が増加しています。その中には、以下の経済圏が含まれます。

- チュニジア (76 位) とウズベキスタン (79 位) は上昇傾向を続けており、後者は 4 年連続でオーバーパフォーマーに選ばれています。
- セネガル (89 位)、ルワンダ (104 位)、そして新規参入のマラウイ (125 位) は、特に事業の洗練度と知識の吸収において、イノベーション能力の成長を示しています。

6. シンガポール、米国、イスラエル、そして香港 (中国) は、特定のイノベーション分野において世界をリードしています。

- シンガポールは、ハイテク製造業、ユニコーン企業の企業価値、GitHub コミット数など、78 中 10 の GII 指標において世界 1 位を獲得し、その数において世界のトップに立っています。
- 米国は 9 つの指標において 1 位となっており、中でも後期段階のベンチャー・キャピタル (VC) 取引、ソフトウェア支出、無形資産集約度において際立っています。
- イスラエルと香港 (中国) は、ともに 7 つの指標で世界 1 位に立っています。イスラエルはベンチャー・キャピタル受領額で首位、香港 (中国) は FDI 流入額でトップの座にあります。
- 高中所得および低所得経済圏の中では、ナミビア (91 位) が教育支出で首位、ナイジェリア (105 位) がユニコーン企業の企業価値で 1 位、マレーシアが科学・工学分野の卒業生数でトップとなっています。
- カンボジア (100 位) とネパール (107 位) は、マイクロファイナンス普及による融資額で引き続きトップクラスを維持しています。一方、フィリピンとベトナム (44 位) は、ハイテク輸出額において引き続き優れた実績を上げています。

7. 地域別のトップは、スイス、米国、チリ、インド、韓国、イスラエル、モーリシャス。スイス、中国、インド、ルワンダは所得グループ別でトップに

- ヨーロッパでは、スイス、スウェーデン、そして英国がランキングの上位を占めています。
- 東欧およびバルト三国においては、エストニア (16 位)、リトアニア (33 位)、ラトビア (41 位) が、デジタル対応力、教育水準、そして活気あるスタートアップ・エコシステムの持つ力を示しています。
- 北米では、米国 (3 位) が首位を占め、次いでカナダ (17 位) が続いています。
- 東南アジア・東アジア・オセアニアでは、韓国 (4 位)、シンガポール (5 位)、中国 (10 位) が上位を占め、日本 (12 位)、香港 (中国) (15 位)、オーストラリア (22 位) がそれに続いています。
- インド (38 位) が中央アジア・南アジアで首位となり、イラン・イスラム共和国 (70 位) およびウズベキスタン (79 位) を上回っています。この地域は初めて、地域別ランキングにおいて中南米・カリブ海を上回りました。これはインド、ウズベキスタン、カザフスタン (81 位) による強力なイノベーション・アウトプットに後押しされたものです。
- 北アフリカ・西アジアでは、イスラエル (14 位) が地域を牽引し、キプロス (25 位)、アラブ首長国連邦 (30 位)、トルコ (43 位)、サウジアラビア (46 位) がこれに続いています。モロッコ (57 位) は過去最高の順位を達成しました。
- 中東地域全体でイノベーションが進展しており、バーレーン (62 位)、ヨルダン (65 位)、オマーン (69 位) が今年の急成長国として挙げられます。これらの国はインフラの改善、研究開発の拡大、産学連携の強化といった要素から恩恵を受けています。
- チリ (51 位) が中南米・カリブ海で 1 位となり、ブラジル (52 位)、メキシコ (58 位) が続きます。
- モーリシャス (53 位) がサハラ以南アフリカ地域で首位となり、南アフリカ (61 位)、セーシェル (75 位)、ボツワナ (87 位)、セネガル (89 位) を上回っています。
- 所得グループ別では、中国 (10 位) が高中所得経済圏で、インド (38 位) が低所得グループで、ルワンダ (104 位) が低所得グループでそれぞれ首位に立っています。

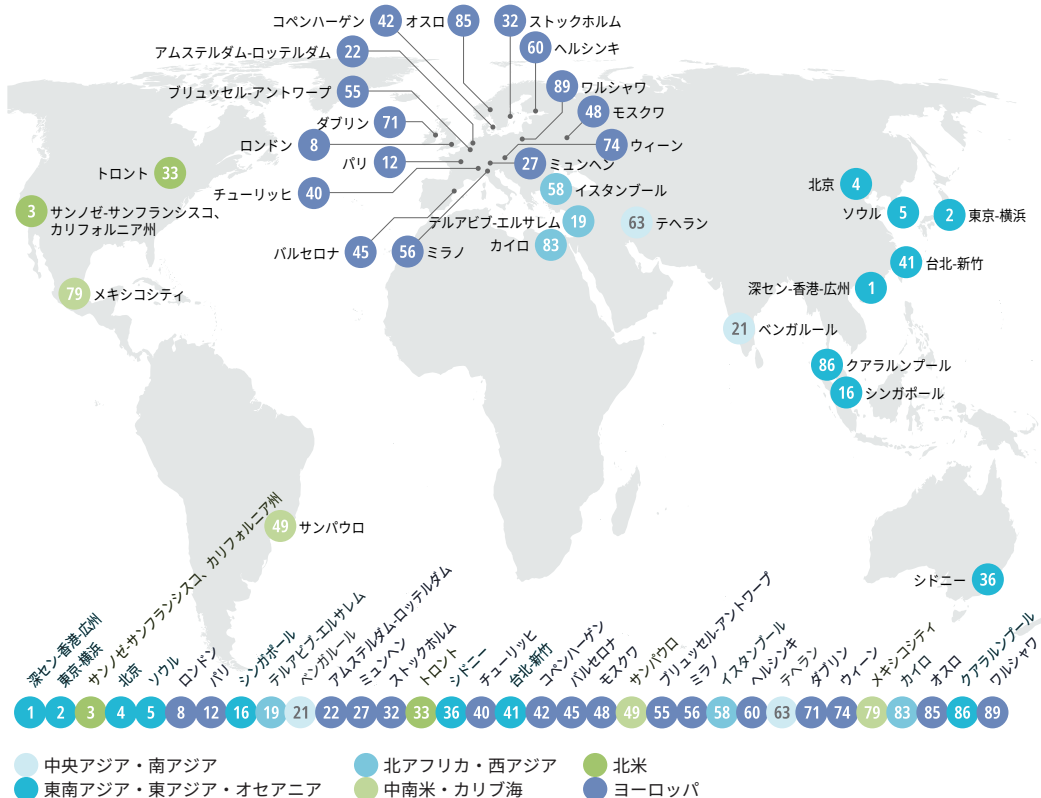
8. 17 の中所得および低所得経済圏が、イノベーションで予想以上の成果

- インドとベトナムは、15年連続でその経済発展のレベルに対して予想を上回る成果を上げており、最も長期にわたりオーバーパフォーマーに選ばれています。ルワンダとウクライナがこれに続きます。
- ブラジル、インドネシア、モロッコ、南アフリカ、ウズベキスタン、セネガルは引き続きオーバーパフォーマーの地位を維持しており、2025年にはチュニジアとマラウイがこれに加わりました。
- オーバーパフォーマーはすべての地域に存在し、最も多いのはサハラ以南アフリカで、次いで東南アジア・東アジア・オセアニア、北アフリカ・西アジアの順となっています。
- 一方、2025年には38の経済圏が、その経済発展のレベルに見合った成果を上げておらず、その大半は中南米・カリブ海に位置しています。

9. 世界のトップクラスのイノベーション・クラスターは、7大陸のうち6大陸に広がっており、深セン-香港-広州が世界をリード

- 今年のGIIトップ100イノベーション・クラスター・ランキングの方法では、特許出願件数および科学論文数に加え、ベンチャー・キャピタル (VC) 取引データを第3の指標として採用しました。これにより、起業活動とイノベーション金融の実態をよりの確に捉えることが可能になりました。
- この新たな手法に基づき、深セン-香港-広州 (中国、香港 (中国)) が世界ランキングの上位を占め、次いで東京・横浜 (日本)、サンノゼ-サンフランシスコ (米国)、北京 (中国)、ソウル (韓国) が続いています。ニューヨーク市、ロンドン、ロサンゼルスが新たにトップ10入りしました。これはVCを新たな変数として追加したこと、およびこれらの都市がこの指標において示した実績が要因となっています。

各経済圏または国境横断地域のトップ100イノベーション・クラスター、2025年



注記: 点線で描かれた円は、トップ100のイノベーション・クラスターを3つ以上擁する経済圏の総クラスター数を示しています。
 出典: グローバル・イノベーション・インデックス・データベース、WIPO、2025年

- 中国は、トップ 100 内のクラスター数 (24 クラスター) で 3 年連続で首位に立っています。米国が 22 のクラスターでそれに続き、次いでドイツが 7、インドと英国がそれぞれ 4 となっています。
- サンパウロ (ブラジル)、アフリカ地域で唯一のトップ 100 イノベーション・クラスターであるカイロ (エジプト)、ベンガルール、デリー、ムンバイ、チェンナイ (インド)、テヘラン (イラン・イスラム共和国)、クアラルンプール (マレーシア) およびシンガポールと共有する越境クラスター、イスタンブール (トルコ)、そして新規参入のメキシコシティ (メキシコ) が、中国を除く中所得経済圏のクラスターとしてトップ 100 に入っています。インドの 4 つのクラスターのうち 3 つが、昨年のクラスター・ランキングと比較して著しい進歩を遂げました。これにはベンチャー・キャピタル活動の指標が組み込まれたことも寄与しています。ベンガルールは 21 位、デリーは 26 位、ムンバイは 46 位にそれぞれ上昇しました。
- 上位 100 のイノベーション・クラスターは高い集中度を示しており、世界の PCT 出願件数およびベンチャー・キャピタル取引活動の約 70%、ならびに科学論文全体の約半数を占めています。上位 10 クラスターだけで、PCT 出願件数の約 40%、ベンチャー・キャピタル取引活動の 35% を生み出しています。
- 10 のクラスターが初めてトップ 100 入りを果たしました。米国 3 地域 (マイアミ、フェニックス、ソルトレイクシティ)、中国 2 地域 (寧波、寧徳) が含まれます。また、以下のイノベーション・クラスターが新たに追加されたことにより、3 つの経済圏が初めてトップ 100 に名を連ねました。ダブリン (アイルランド)、メキシコシティ (メキシコ)、オスロ (ノルウェー)。

10. サンノゼ-サンフランシスコは、世界で最も革新性の高いクラスター

- 米国のサンノゼ-サンフランシスコと英国のケンブリッジは、人口密度に比してイノベーション集約度が最も高いクラスターです。ボストン-ケンブリッジ (米国)、寧徳 (中国)、オックスフォード (英国) が続きます。
- 寧徳市が世界 4 位に躍進した背景には、エネルギー技術分野の世界的リーダーである寧徳時代電力科技有限公司 (CATL) の存在が大きな原動力となっています。
- フィンランドのヘルシンキは、9 位にランクインし、集約度において欧州連合 (EU) 内で最高位のクラスターです。

2025 年版 GII 調査結果

GIJは世界のどの経済圏で最も
イノベーションが進んでいるのかを
明らかにし、139 の経済圏の
パフォーマンスを評価します。

この結果セクションでは、2025年版グローバル・イノベーション・インデックス(GII)の主要な調査結果を紹介し、所得グループおよび世界地域ごとに、最も高いパフォーマンスを示した経済圏を明らかにします。イノベーション・リーダーと、予想を超える成果を上げているイノベーション・オーバーパフォーマーを特定します。

2025年版GIIのランキングは、主に2023年から2025年までのデータ(全データポイントの約80%を占める)を反映したものです。付録1では、これらの結果を適切に解釈する方法について包括的なガイダンスを提供し、年間ランキング間の直接比較に影響を与える方法論的考察について説明しています。

2025年版GIIのイノベーション・リーダー

2025年も、スイスは引き続き世界のイノベーション・リーダーです。中国が初めてトップ10入りを果たしました。一方、中所得国であるインド、トルコ、ベトナム、フィリピン、インドネシア、モロッコ、アルバニア、イランは、2013年以降で最も急上昇を遂げた国々です。

スイスはグローバル・イノベーション・インデックス(GII)において、15年連続でトップを維持しています(図1)。創造的なアウトプットの分野では世界トップの地位を維持しており、人的資本と研究(6位)を除くすべての分野においてトップ5の地位を確保しています。

スウェーデンと米国は、3年連続でそれぞれ2位と3位の順位を維持しています。

スウェーデンは、事業の洗練度と創造的なアウトプット両分野において世界第2位に位置し、研究員数(1位)、グローバル・ブランドの価値(2位)、研究開発総支出額(3位)、知識集約型雇用(3位)の指標でトップクラスとなっています。

米国は市場の洗練度と事業の洗練度の両方でトップの位置を占めています。研究開発総支出額(4位)およびグローバル企業の研究開発投資(1位)において首位を占め、さらに企業による実施・資金提供のR&D(それぞれ4位および5位)においても極めて高い実績を示しており、イノベーション推進における民間セクターの中核的役割を浮き彫りにしています。世界最大級の国内市場規模(2位)を有し、堅調な民間セクターに対する国内与信額(4位)と活気あるスタートアップ資金調達に支えられています。しかしながら、インフラ(32位)におけるそのパフォーマンスは、比較すると依然として低い水準にあります。米国には22のイノベーション・クラスターが存在し、ベンチャー・キャピタル(VC)活動が活発であること、スタートアップのエコシステムが活発であること、大学と産業界の連携が緊密であることが特徴です(クラスターのセクション参照)。サンノゼ-サンフランシスコ地域は世界で3位にランクインし、シリコンバレーのテクノロジー大手企業と強力な特許・ベンチャー・キャピタルによるアウトプットに牽引され、イノベーション集約度において1位を占めています。

韓国は2025年に4位へと順位を上げ、これまでの最高位を記録しました。人的資本と研究の柱において世界的に主導的立場にあり、研究員数(2位)、研究開発支出総額(2位)、企業による研究開発(1位)、企業内研究員数(1位)、発明者国別PCT特許出願件数(3位)において世界トップ3にランクインしています。

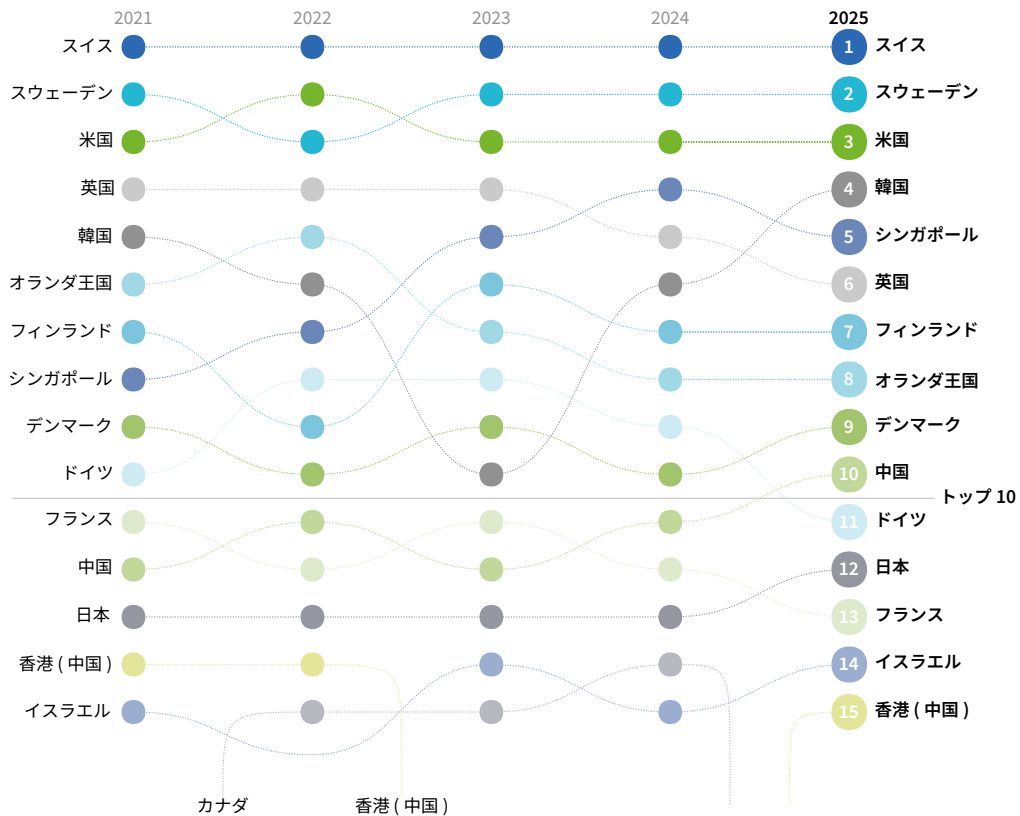
シンガポールは、2025年に順位を1つ下げて5位となりましたが、依然としてトップ5内を維持しています。同国は、78あるGII指標のうち10項目で1位を獲得しており、これは世界最多です。この点で、米国および中国を上回る地位を保っています。シンガポールはイノベーション・インプットでは全体的に引き続き上位を維持していますが、イノベーション・アウトプットでは

依然として上位8カ国に後れを取っており、特に創造的なアウトプット(15位)においてそれが顕著です。

フィンランド(7位)とオランダ(8位)は、トップ10内において堅調な位置を維持しています。フィンランドはインフラ(3位)分野において優れ、オランダは創造的なアウトプットにおいて6位に位置しており、バランスの取れたイノベーション・エコシステムを反映しています。デンマークは順位を1つ上げて9位となりました。これは、制度・機関(2位)、ICTアクセス(1位)、オンライン創造性(5位)におけるトップクラスの実績に支えられたものです。

中国が初めてGIIトップ10入りを果たし、知識および技術のアウトプットにおいて世界をリードしています。トップ30の中で唯一の中等所得国である中国は、引き続き所得グループ内で首位を維持し、地域内ではシンガポールと韓国に次ぐ3位に位置しています。世界知的所有権機関(WIPO)の推計によると、中国は2024年に研究開発費支出額で世界首位となる見込みです。中国は特許出願件数で世界をリードし、トップ100イノベーション・クラスターを最多の24カ所擁しています。これには現在1位の深セン-香港-広州地域をはじめ、北京も含まれています。両地域とも特許、科学、そしてますます活発化するベンチャー・キャピタルの拠点となっています。中国のハイテク輸出額とグローバル・バリューチェーンにおける地位は、特に人工知能、半導体、グリーンテクノロジーといった戦略的分野において、引き続き強化されています。従来、民間イノベーション・ファイナンスの分野では後れを取っていましたが、中国は急速にその差を縮めつつあります。現在、後期段階のVC取引と企業資金による研究開発の両分野で2位、世界の主要企業の研究開発投資の中では3位にランクインしており、イノベーション推進において民間セクターの役割が拡大していることを裏付けています。

図1 GIIランキングの推移: トップ15のイノベーター、2021~2025年



注記: 手法の変更やデータ入手可能性の変動により、GIIランキングの年次比較に影響が生じる可能性があります。GIIモデルは定期的に改良が加えられています。そのため、経時的なパフォーマンスの傾向を解釈する際には、この点を考慮に入れる必要があります。

出典: グローバル・イノベーション・インデックス・データベース、WIPO、2025年

日本は2025年に順位を1つ上げて12位となり、2011年以来の最高順位となりました。ハイテク分野と研究開発において引き続き優れた実績を上げており、特許ファミリー件数では2位、企業による研究開発では3位に入っています。事業の洗練度(6位)における高い評価は、日本の産業革新能力の深さをさらによく反映しています。イスラエルは順位を1つ上げて14位となりました。研究開発支出総額、ベンチャー・キャピタル受領額、大学と産業界の共同研究開発、企業による研究開発において1位を獲得しており、活力に満ちた資金力のあるイノベーション・エコシステムを体現しています。

香港(中国)は3つ順位を上げ、15位となりました。これは2018年以来の最高順位であり、金融・物流ハブとしての持続的な強さを反映しています。特に市場の洗練度(2位)と制度・機関(8位)において優れた実績を示しています。さらに、深セン-香港-広州地域は、今年の世界で最も優れたイノベーション・クラスターに選ばれています。

エストニアは16位に位置し、小規模経済国の中で引き続き首位を維持しています。ICTの利用では2位、行政オンラインサービスでは3位に位置しており、そのデジタル分野におけるリーダーシップを裏付けています。エストニアはVCにおいてもトップクラスであり、ベンチャー・キャピタル受領額とVC投資家数の両方で1位となっています。

アイルランドは順位を1つ上げて18位となり、トップ20内での地位を確固たるものにしました。同国は引き続き強力なICT部門の恩恵を受けており、ICTサービス輸出額および知的財産(IP)支払額で1位、無形資産集約度で2位、ソフトウェア支出で3位となっています。

ベルギーは順位を3つ上げて21位となりました。これは2013年以来の最高順位です。事業の洗練度(10位)において特に際立っており、特に企業による研究開発(6位)、知識集約型雇用(11位)、企業内研究員数(11位)、産学連携および国際的な関与(14位)の分野で高い実績を示しています。オーストラリアは22位に位置し、トップ25内での上昇傾向を続けています。大学の質(3位)において非常に優れた実績を示し、科学論文の影響力(6位)および高等教育機関への留学生受け入れ(5位)においても高い評価を得ており、世界的な人材と研究の拠点としての魅力をさらに強固なものとしています。

2025年にランキングが大台を突破した経済圏

2025年には、いくつかの経済圏がイノベーションにおいて大台を突破しています(図2)。

ノルウェーは20位でトップ20入りを果たしました。インフラ(1位)分野では世界をリードし、制度・機関(9位)でも堅調なパフォーマンスを示しています。これらは、強固なイノベーション・インプットのプロファイルによって裏付けられています。

アラブ首長国連邦は2025年、30位に上昇し、継続的な進歩とこれまでの最高順位を記録しました。アラブ首長国連邦は、制度・機関の質(7位)、事業の洗練度(28位)においてトップクラスの評価を得ており、さらに高等教育システムは高度に国際化されています。ビジネス環境(2位)において良好な実績を示しており、ICTアクセス(6位)、ICT利用(7位)、行政オンラインサービス(16位)などの分野では依然としてベンチマークとなっています。

クロアチア(40位)がトップ40入りを果たしました。

図 2 2025 年にランキングが大台を突破した経済圏



注記: GII ランキングの前年比は、GII モデルの経時的変化およびデータの入手可能性を考慮に入れる必要があります。

出典: グローバル・イノベーション・インデックス・データベース、WIPO、2025 年

フィリピン (50 位) は順位を向上させ続け、トップ 50 入りを果たしました。これにより、東南アジア・東アジア・オセアニアにおいて、最も着実にイノベーションの順位を上げた国の 1 つとしての地位をさらに確固たるものにしてしています。また、低中所得国の中でも 3 位に位置づけられています (表 1)。

フィリピンのイノベーション・エコシステムの決定的な強みは、グローバル市場への統合と貿易主導型経済にあります。同国は先進技術やデジタルサービスを生産・吸収する一方で、応用イノベーションへの注力をますます強めています。フィリピンはハイテク輸出額において世界 1 位、ハイテク輸入額では 4 位、またクリエイティブ財の輸出額 (16 位) と ICT サービス輸出額 (20 位) においても高い実績を上げています。インフラおよび研究開発支出は依然として比較的低水準ではありますが、ハイテク製造業 (20 位) の存在、生産プロセスの複雑化、そして新興の創造的部門 (認知度が高まりつつあるブランド環境や、無形資産集約度 (35 位) の顕著な改善を含む) は、イノベーションが複数の産業に浸透しつつあり、知識ベース型セクターにおける継続的な進展を反映していることを示唆しています。

モロッコは 57 位に上昇し、トップ 60 入りを果たしました。これは同国にとって過去最高の順位であり、長期的なイノベーションの軌跡における重要な節目となります。モロッコの進歩は、その産業能力、知的財産創出、および知識への投資を反映しています。モロッコの進歩の核心には、高付加価値生産への移行があります。その経済は、原材料や低コスト製造の提供から次第により高度な生産へと移行し、ハイテク製造業では世界で 12 位に位置づけられています。現在、ハイテク製造業は製造業全体の生産高のほぼ 50% を占めています。同国は、GDP に対する意匠出願件数 (6 位)、商標 (24 位)、無形資産集約度 (26 位) において高い実績を示しており、これは民間セクターがブランド価値を構築し、バリューチェーンの上流へ移行する能力を次第に高めていることを反映しています。また、教育支出額 (16 位) と労働生産性成長率 (24 位) においても上位に位置します。

アルメニア (59 位) は著しい進歩を遂げ、トップ 60 入りを果たしました。

バーレーン (62 位)、ヨルダン (65 位)、そしてオマーン (69 位) は大幅な前進を遂げており、いずれもトップ 70 入りを果たしています。これらの経済圏は、強固な制度・機関、拡大を続けるインフラ、そして増え続ける人的資本という共通の基盤を有しています。バーレーンはインフラ (15 位) において高い実績を示しており、特に情報通信技術 (ICT) (11 位) 分野では顕著です。ICT アクセスでは 1 位、ICT 利用では 11 位、行政オンラインサービスでは 23 位という順位を獲得しています。また、支援が行き届いたビジネス環境を有している点でも際立っており、起業家精神に関する政策と文化、事業活動のための政策の安定性、そしてビジネス環境全体において 7 位に位置づけられています。オマーンは人的資本において際立った存在であり、科学・工学分野の卒業生数 (12 位) で高い順位に位置しています。

アルバニア (67 位) がトップ 70 に加わりました。

チュニジアは今年、順位を上げて 76 位となり、トップ 80 入りを果たしました。2025 年の改善は、新たな勢いと将来の成長の可能性を示しています。チュニジアは、特に高等教育と科学分野において、強固な人的資本基盤と新興のイノベーション・エコシステムを継続的に活用しています。同国は、科学・工学分野の卒業生 (2 位) において上位に位置づけられ、また科学技術論文数 (17 位) においても高い評価を得ています。

ウズベキスタンは 79 位に上昇し、過去最高の順位を記録するとともに、トップ 80 入りを果たしました。労働生産性成長率 (6 位) において良好な実績を示しており、これは経済効率の向上を示す指標です。また、科学・工学分野の卒業生数 (13 位) の増加においても顕著な特徴が見られます。ウズベキスタンは、事業環境整備においても強みを発揮しており、このサブピラーで 9 位に位置しています。また、教育資金調達においても進展を続けており、教育支出額では 24 位となっています。

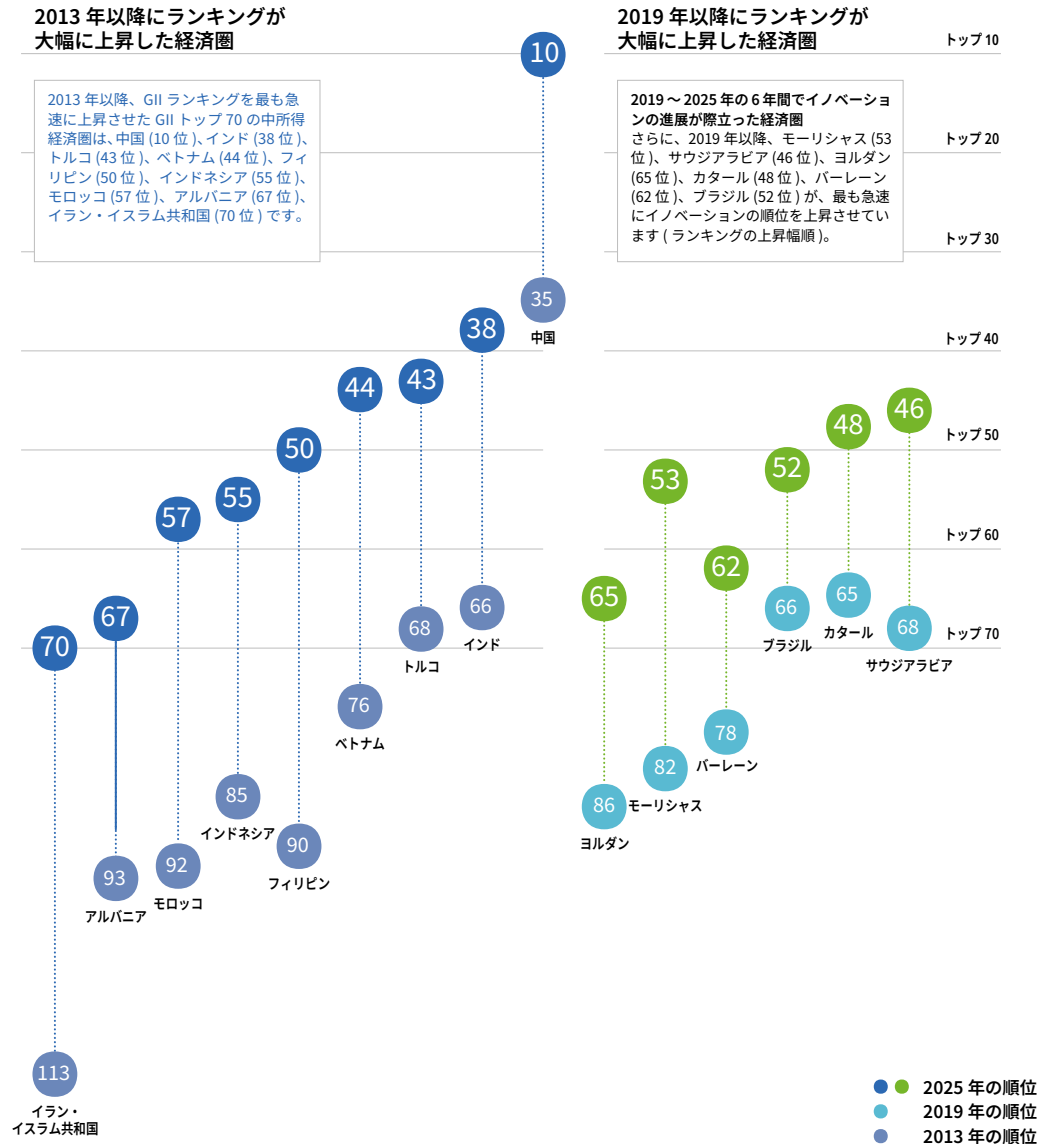
セーシェル (75 位) は 2025 年にグローバル・インベストメント・インデックス (GII) の調査対象に復帰し、2015 年以来初めてランキングに再登場し、トップ 80 にランクインしました。サハラ以南アフリカにおいて、より優れたパフォーマーの 1 つとしての地位を確立しています。

イノベーションの順位を上げた国

中国 (10 位)、インド (38 位)、トルコ (43 位)、ベトナム (44 位)、フィリピン (50 位)、インドネシア (55 位)、モロッコ (57 位)、アルバニア (67 位)、イラン・イスラム共和国 (70 位) は、GII トップ 70 の中で中所得経済国に属し、2013 年以降ランキングを最も急速に上昇させた国々です (図 3)。

2019 年以降、サウジアラビア (46 位)、カタール (48 位)、ブラジル (52 位)、モーリシャス (53 位)、バーレーン (62 位)、ヨルダン (65 位) が、最も急速にイノベーションのランクを上げています。バーレーンとヨルダンは、2025 年に達成された進展により、このグループに加わりました (図 3)。

図3 世界のイノベーション競争で順位を上げている経済圏



注記: GIIランキングの前年比は、GIIモデルの経時的変化およびデータの入手可能性を考慮に入れる必要があります。

出典: グローバル・イノベーション・インデックス・データベース、WIPO、2025年

中国は引き続き、すべての中所得経済国の中で首位を維持しています(表1)。

インドは中央アジア・南アジアにおける主導的立場を強化し、38位へと順位を上げました。情報通信技術(ICT)サービス輸出(1位)、後期段階のVC取引(4位)、無形資産集約度(8位)、ユニコーン企業評価額(11位)といった分野で特に優れた実績を示しており、イノベーション主導型経済の成長を反映しています。

ブラジルは52位に位置し、その経済発展に対して引き続き高いパフォーマンスを維持しています。これは、強固な研究インフラ、持続的な研究開発投資、そして優れた学術界および産業界の研究能力に支えられているためです。サンパウロのイノベーション・クラスターは、世界トップ50に引き続きランクインしており、科学的な成果と技術開発におけるブラジルの地域的リーダーシップを確固たるものにしていきます。

表 1 所得グループ別ランキング上位 10 経済圏

所得 グループ内 順位	GII 順位	経済圏	所得 グループ内 順位	GII 順位	経済圏
高所得経済圏 (総数 54)			高中所得経済圏 (総数 36)		
1	1	スイス	1	10	中国
2	2	スウェーデン	2	34	マレーシア
3	3	米国	3	43	トルコ
4	4	韓国	4	45	タイ
5	5	シンガポール	5	52	ブラジル
6	6	英国	6	53	モリシャス
7	7	フィンランド	7	54	セルビア
8	8	オランダ王国	8	55	インドネシア
9	9	デンマーク	9	56	ジョージア
10	11	ドイツ	10	58	メキシコ
低中所得経済圏 (総数 37)			低所得経済圏 (総数 11)		
1	38	インド	1	104	ルワンダ
2	44	ベトナム	2	117	トーゴ
3	50	フィリピン	3	120	マダガスカル
4	57	モロッコ	4	124	ウガンダ
5	65	ヨルダン	5	125	マラウイ
6	76	チュニジア	6	126	ブルキナファソ
7	79	ウズベキスタン	7	127	ブルンジ
8	86	エジプト	8	128	モザンビーク
9	89	セネガル	9	134	エチオピア
10	90	レバノン	10	135	マリ

出典: グローバル・イノベーション・インデックス・データベース、WIPO、2025 年

北アフリカ・西アジア、特に中東地域、そしてサハラ以南アフリカにおいて、イノベーションの勢いが高まっている

北アフリカ・西アジアでは、2025 年にイノベーションの勢いの高まりが見られ、14 の経済圏が順位を上げました。北アフリカにおいて、モロッコは 9 ランク上昇し、同地域内における最も顕著な改善の 1 つを示しています。

中東におけるイノベーション・パフォーマンスも着実に進展しています。アラブ首長国連邦は 2025 年に 30 位まで順位を上げました。サウジアラビアは 46 位に順位を上げ、カタール (48 位) はトップ 50 内での上昇を続けています。サウジアラビアとカタールはまた、高いインプット・スコアを獲得しており、それぞれ 31 位と 34 位にランクインしています。これは市場の洗練度、

政策安定性、産学連携などの分野における強みが寄与した結果です。カタールは国際的な人材の誘致において際立っており、国際的な高等教育機関への留学生受け入れにおいて世界で1位になっており、情報通信技術 (ICT) の活用が非常に進んでいます。

今年の調査対象となったサハラ以南アフリカの32の経済圏のうち、10の経済圏でランキングの改善が見られました。ナミビア (91位) が地域内で最も大きな改善を遂げ、次いで南アフリカ (61位)、ナイジェリア (105位) が続きます。

サハラ以南アフリカは、イノベーション・オーバーパーフォーマーに選ばれている経済圏の数においてトップを走っており、以下の6つの経済圏がそれに該当します。南アフリカ (61位)、セネガル (89位)、ルワンダ (104位)、マダガスカル (120位)、マラウイ (125位)、ブルンジ (127位)。マラウイはこのグループに新たに加盟した国です。

データ収集の改善により、2025年には以下の5つのサハラ以南アフリカ諸国が新たにGIIの調査対象となります。セーシェル (75位)、マラウイ (125位)、レソト (132位)、ギニア (133位)、コンゴ (137位) (ボックス1) (コンゴは今回初めての調査対象)。

シンガポールは世界的に最も多くの指標で首位を占めており、米国や中国を上回る。カンボジア、ナミビア、ネパール、ナイジェリアといった中所得経済圏は、特定の分野で特に優れた成果を上げています。

2025年においても、シンガポールはイノベーション分野における主導的立場を維持し、78のイノベーション指標のうち10項目で世界第1位を獲得しています (図4)。政府の有効性、ビジネス環境における政策の安定性、外国直接投資流入額、ユニコーン企業の評価額、ハイテク製造業、GitHubへのコミット数において、特に優れています。

米国がそれに続き、9つの指標において世界1位 (2024年と変わらず) となっています。後期段階のVC取引、グローバル・ブランドの価値、グローバル企業の研究開発投資、ユニコーン企業の企業価値、ソフトウェア支出、無形資産集約度において、リードを保っています。イスラエルと香港 (中国) は、それぞれ7つのイノベーション指標で首位を占め、3位タイとなりました。イスラエルはベンチャー・キャピタル受領額やユニコーン企業の企業価値などの指標で首位を占めています。一方、香港 (中国) は外国直接投資流入額や大学と産業界の連携、国際的な関与においてトップの地位を維持しています。中国は5位となり、クリエイティブ財の輸出額、実用新案出願件数、商標出願件数、意匠出願件数を含む6つの指標で首位を獲得しました。アイスランドとキプロスは6位タイとなり、それぞれ5つの指標で1位を獲得しています。アイスランドは低炭素エネルギーの使用で優れており、キプロスはモバイルアプリ開発でトップとなっています。

いくつかの経済圏は、特定の分野において卓越した成果を示しています。ナミビアは教育支出額においてトップであり、マレーシアは科学・工学分野の卒業生数で首位となっています。カタールとアラブ首長国連邦は高等教育機関への留学生受け入れにおいて主導的立場にあり、一方、サウジアラビアはICTの利用において優位性を示しています。カンボジアとネパールはマイクロファイナンス機関による融資額において1位であり、一方フィリピンとベトナムはハイテク輸出額において優れています。ナイジェリアはユニコーン企業の評価額で首位を獲得し、インドはICTサービス輸出においてトップの地位を占めています。

図 4 ランキング 1 位の GII 指標の数が最も多い経済圏、2025 年

経済圏	インプット	アウトプット	合計
シンガポール	6	4	10
米国	3	6	9
イスラエル	5	2	7
香港(中国)	6	1	7
中国	2	4	6
アイスランド	3	2	5
キプロス	2	3	5

注記: GIIの手法では、特定の指標において複数の経済圏が首位を共有することがあります。詳細は、GII 経済概要およびプロフィール、ならびに付録Iをご参照ください。

出典: グローバル・イノベーション・インデックス・データベース、WIPO、2025 年

ボックス 1 では、GII を使用して経済圏のイノベーション・パフォーマンスを改善させる際に留意すべき重要な推奨事項と注意事項を概説しています。

ボックス 1 グローバル・イノベーション・インデックス (GII) の効果的な利用方法: 戦略的ガイド

グローバル・イノベーション・インデックス (GII) は、単なるベンチマーク・ツールから、世界中で活用されるイノベーション政策形成のための資源へと発展してきました。2024 年の WIPO 調査によると、加盟国の 77% が現在、国家イノベーション戦略の策定に GII を活用しています。これは 2022 年比で 20% の急増です。導入は世界各地域に広がっており、特にアフリカ (50% から 80% へ)、アラブ諸国 (60% から 75% へ)、ラテンアメリカ (68% から 75% へ) において、GII の利用が著しく増加しています。

グローバルで大規模な関与を促進するため、WIPO の GII チームは年間最大 60 件の国別・地域別イベントを開催し、大陸をまたいだ省庁横断タスクフォースの運営を支援しています。GII は、2 段階の手法を通じて、エビデンスに基づく政策立案を推進しています。

1. データに基づく評価 – 政策立案者、統計専門家、イノベーション関係者を結集し、国家のイノベーション・パフォーマンスを分析します。
2. 戦略的最適化 – 強みと弱みを特定し、官民の主体と連携した政策対応を設計すること。

主要な実施手法

- **政策統合:** 国家開発枠組みにイノベーションを組み込み、省庁横断的なタスクフォースを設置します。これらは「政府全体のアプローチ」を通じて運営され、最高指導部へ報告します。
- **ステークホルダーの関与:** スタートアップ企業、大学、特許庁等の官庁、イノベーション・クラスターなど幅広い関係者と協議し、セクター間の連携を確保します。国家知的財産政策を包括的なイノベーション戦略と整合させ、最大限の相乗効果を図ります。
- **測定可能な成果:** 明確で定量的な目標を設定し、体系的な評価と進路修正を可能にします。
- **現実的な目標設定:** ランキングの即時的な変動ではなく、段階的なシステム改善に注力し、政策効果が現れるまでの時間を確保してください。

データ・インフラストラクチャーの構築

GIIは、各国からの直接提出ではなく、ユネスコ統計研究所などの国際的な情報源からのデータを活用することで、各国のイノベーション・データシステムの強化に貢献しています。GIIイノベーション・エコシステム&データ・エクスプローラー2025は、各国がデータの不足箇所を特定し、イノベーション指標を改善することを支援します。

地方レベルでの利用拡大

現在、いくつかの国では、地域レベルと都市レベルの両方でGIIの原則を適用しています。取り組みには、中核指標の適応、地域データの入手可能性の評価、創造的なアウトプットや資金調達へのアクセスといった指標に関する課題への対応などが含まれます。WIPOは、知識交換ワークショップおよびWIPO (2024年)知的所有権とイノベーション・エコシステム部門 (IES) ツールキット『地方レベルにおけるイノベーション測定の実現』は、地方自治体レベルでの適用を目的として設計されています。¹

イノベーション指標の革新

データの持続的な不足に対処するため、GII iLensイノベーション・データ・ラボが2023年に設立されました。ラボでは、イノベーション・ファイナンス、起業家精神、連携、深層科学 (例: ゲノム解析) などの分野における新たな指標について考察します。新たなデータソースと分析手法 (例えばウェブスクレイピングや地理空間分析など) を活用し、当研究所の初期調査結果は既に今後のGII版の開発に反映されつつあり、イノベーション測定のためのツールキットを拡充しています。

イノベーション・オーバーパーフォーマー: 世界的な競争の中でも一貫して優れた成果を上げるグループ

インドとベトナムは、15年連続でこの地位を維持しており、最も長く優れた成果を上げ続けている国々です。ルワンダとウクライナがすぐ後に続き、チュニジアとマラウイはオーバーパーフォーマーのグループに新たに加わりました。

2025年版GIIでは、経済発展レベルに対してイノベーションで予想以上の成果を上げている17の経済圏 (2024年より2つ減少) を特定し、それらを今年のイノベーション・オーバーパーフォーマーとして位置づけています (図5および表2)。

インド (38位) とベトナム (44位) は、2011年以降15年連続で、イノベーション・オーバーパーフォーマーの地位を維持しています。これらの低中所得経済圏は、GIIの全7分野において自国の所得グループを上回る成果を上げており、高中所得国の基準値をも凌駕しています。

1 本調査およびツールキットでは、GIIの中核指標を都市・地域・州レベルへ適用する際の汎用性を検証し、データ入手可能性を評価するとともに、創造的なアウトプットやマイクロファイナンスなどの指標を地域規模で適用する際の課題を明らかにしています。このような地域に根差したアプローチにより、イノベーション政策を最も適切な地理的規模で的確に実施することが可能となります。

表 2 2025 年のイノベーション・オーバーパフォーマー：所得グループ、地域区分、イノベーション・オーバーパフォーマーに選ばれた年

経済圏	所得グループ	地域区分	イノベーション・オーバーパフォーマーに選ばれた年 (合計回数)
インド	低中所得	中央アジア・南アジア	2011-2025 (15)
ベトナム	低中所得	東南アジア・東アジア・オセアニア	2011-2025 (15)
ウクライナ	高中所得	ヨーロッパ	2012, 2014-2025 (13)
ルワンダ	低所得	サハラ以南アフリカ	2012, 2014-2025 (13)
タイ	高中所得	東南アジア・東アジア・オセアニア	2011, 2014-2015, 2018-2025 (11)
マラウイ	低所得	サハラ以南アフリカ	2012, 2014-2021, 2025 (10)
ヨルダン	低中所得	北アフリカ・西アジア	2011-2015, 2022-2025 (9)
マダガスカル	低所得	サハラ以南アフリカ	2016-2018, 2020-2025 (9)
セネガル	低中所得	サハラ以南アフリカ	2012-2015, 2017, 2023-2025 (8)
南アフリカ	高中所得	サハラ以南アフリカ	2018-2025 (8)
モロッコ	低中所得	北アフリカ・西アジア	2015, 2020-2025 (7)
フィリピン	低中所得	東南アジア・東アジア・オセアニア	2019-2025 (7)
ブルンジ	低所得	サハラ以南アフリカ	2017, 2019-2022, 2025 (6)
チュニジア	低中所得	北アフリカ・西アジア	2018, 2020-2023, 2025 (6)
ブラジル	高中所得	中南米・カリブ海	2021-2025 (5)
ウズベキスタン	低中所得	中央アジア・南アジア	2022-2025 (4)
インドネシア	高中所得	東南アジア・東アジア・オセアニア	2022-2025 (4)

注記: 所得グループの分類は、世界銀行所得グループ分類 (2024 年 7 月) に基づいています。地域区分は、国連刊行の統計用標準国・地域コード (M49) に対応しています。

出典: グローバル・イノベーション・インデックス・データベース、WIPO、2025 年

南アフリカ (61 位) とセネガル (89 位) は、いずれも今年のランキングで順位を上げ、8 度目となるイノベーション・オーバーパフォーマーとしての地位を確保しました。セネガルは、資本形成 (1 位)、マイクロファイナンス (9 位)、ベンチャー・キャピタル受領額 (32 位) などの分野で優れた実績を示しており、これはスタートアップ企業や企業にとって比較的健全な投資環境が整っていることを示しています。また、GDP に対するユニコーン企業の企業価値 (10 位) が世界で最も高い水準の 1 つに達しており、これはインフラや研究開発能力が制約される状況下においても、民間セクターが新技術を拡大できることを示しています。

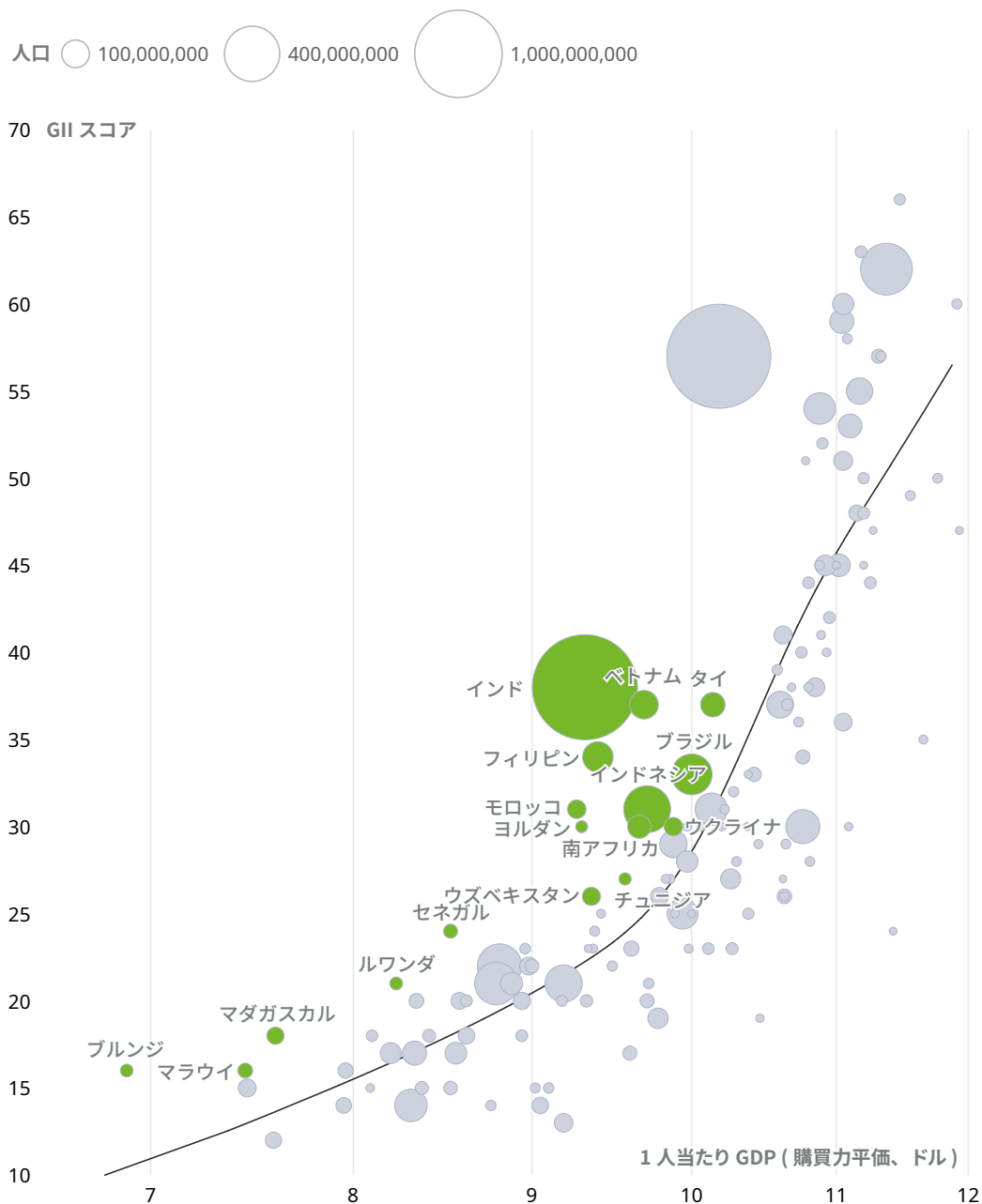
モロッコ (57 位) は今年もオーバーパフォーマーとしての評価を保ち、今回トップ 60 入りを果たしました。

ブラジル (52 位) は 5 年連続で予想を上回る成果を上げており、インドネシア (55 位) とウズベキスタンは 4 年連続でオーバーパフォーマーに選ばれています。チュニジア (76 位) とマラウイ (125 位) が、2025 年にこの荣誉あるグループに加わります。

地域別では、サハラ以南アフリカから最多の 6 つの経済圏がオーバーパフォーマーに選ばれています (表 2)。

一方、2025 年時点において、38 の経済圏がイノベーション分野で予想を下回る結果となりました。このうち中南米・カリブ海が最も大きな割合 (13 経済圏) を占めています。この地域の多くのアンダーパフォーマーは、世界ランキングにおいて順位を下げました。高所得国の中でアンダーパフォーマーに分類されるのは、主に北アフリカ・西アジアの資源依存型経済圏であり、サウジアラビア (46 位)、カタール (48 位)、バーレーン (62 位)、オマーン (69 位)、クウェート (73 位) などが該当します。しかしながら、これらの経済圏の大半 (クウェートを除く) は 2025 年にイノベーション・ランキングで順位を上げ、バーレーンとオマーンはトップ 70 入りを果たしました。低中所得グループには、10 のアンダーパフォーマーが含まれており、そのうち 6 カ国はサハラ以南アフリカに位置します。

図5 経済発展のレベルとの比較で見たイノベーション・オーバーパフォーマー



● 経済発展のレベルから予想されるパフォーマンスを上回る

注記: 円の大きさは人口を示します。3次スプライン傾向線は、2025年版GIIで調査を行ったすべての経済圏について、国民1人当たりのGDPと予想されるイノベーション・パフォーマンスの水準の関係を示したものです。

出典: グローバル・イノベーション・インデックス・データベース、WIPO、2025年

イノベーション効率のリーダー: 利用可能なインプットからアウトプットを最大化する

中国はイノベーションの成果において複数の高所得経済圏を上回っています。一方、イラン・イスラム共和国、インド、メキシコ、チュニジア、ナイジェリアといった他の中所得経済圏では、イノベーション効率の向上が見られません。

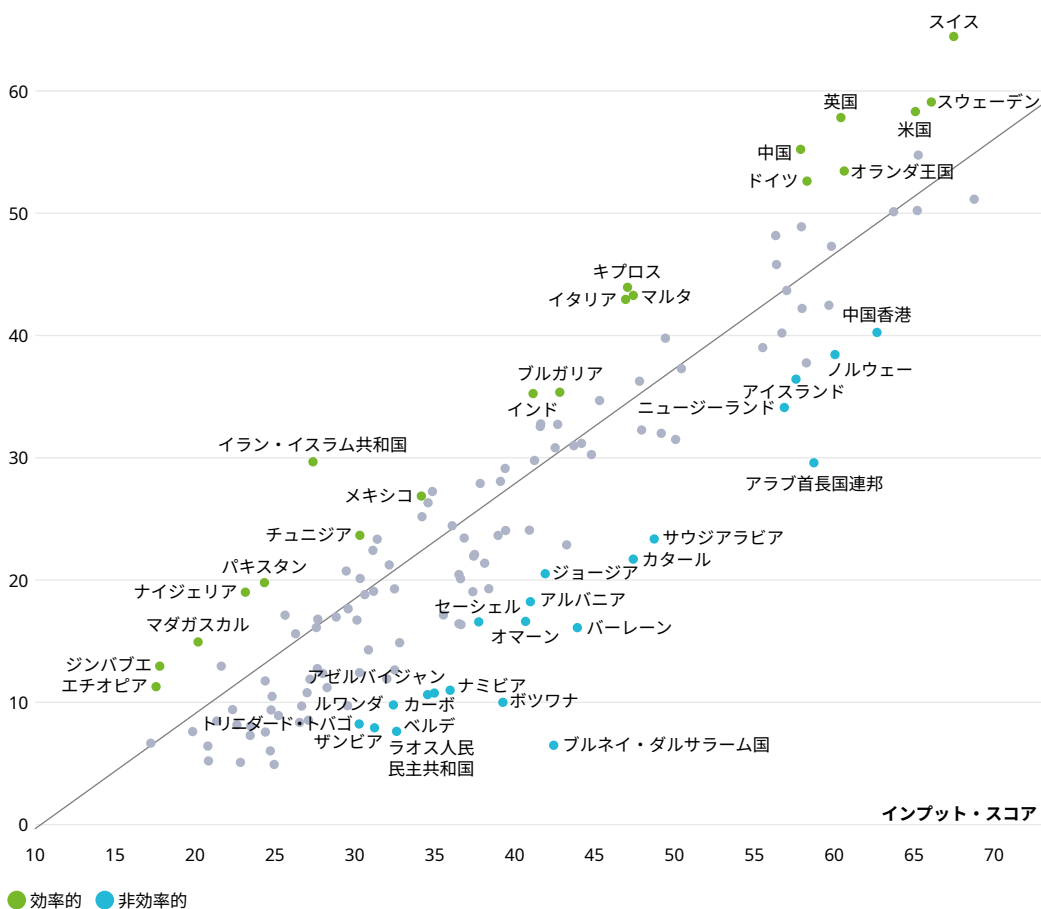
スイス (1 位) は、イノベーションの投入を卓越した成果へと転換する点において、高所得経済国の中でトップを走っており、スウェーデン (2 位)、米国 (3 位)、そして英国 (6 位) を上回っています。英国はフィンランド (7 位)、オランダ (8 位)、デンマーク (9 位) よりも高い成果を生み出しており、より少ない投入量でより高い効率を達成しています。ドイツ (11 位) とイタリア (28 位) も同様に、投入投資に対する産出生成において高い効率性を示しています (図 6)。

中国 (10 位) は高中所得グループで優位性を示しており、シンガポール (5 位)、ドイツ (11 位)、オーストラリア (22 位) など、いくつかの高所得経済国と同等かそれ以上のイノベーション成果をより少ない資源の投入で生み出しています。イラン・イスラム共和国 (70 位) は、投入水準に基づいた期待を上回る成果を上げており、ブラジル (52 位) およびロシア連邦 (60 位) を上回っています。メキシコ (58 位) は投入量に対する生産量が堅調に推移しており、インドネシア (55 位)、チリ (51 位)、コロンビア (71 位) を上回る実績を示しています。

低中所得グループの中でも、インド (38 位)、チュニジア (76 位)、パキスタン (99 位)、ナイジェリア (105 位)、ジンバブエ (129 位) は効率的な経済圏として浮上しており、限られたイノベーションの投入を、それに釣り合いなほど高い成果へと転換しています。マダガスカル (120 位) は低所得国の中でもイノベーション効率において引き続き際立った存在であり、一方エチオピア (134 位) は総合順位を下げたものの、2025 年には効率性を向上させています。

図 6 イノベーションのインプット対アウトプットのパフォーマンス、2025 年

70 アウトプット・スコア



注記: 線は、2025 版 GII に含まれるすべての国のインプット・スコアとアウトプット・スコア間の適合線に対応します。

出典: グローバル・イノベーション・インデックス・データベース、WIPO、2025 年

ボックス 2 全所得水準におけるイノベーションの連携: 大学ランキングに焦点を当てる

大学はイノベーションの中心的存在です。知識を生み出し、人材を育成し、学术界、産業界、政府をつなぐ役割を果たしています。大学はしばしば主要なイノベーション・クラスターの中核を担っています (クラスターのランキング参照)。政策立案者は、研究の影響力と商業化を促進するため、大学と企業および国際的なパートナーとの連携をますます推進しています。

この動きを捉えるため、2025 年版 GII では今年、新たな指標である産学連携および国際的な関与を導入しました。Times Higher Education のデータに基づき、この指標は、経済圏内の上位 5 大学における産業界との連携および国際共同研究のスコアを統合したものです。

高所得経済圏は、産業界との連携と国際的な視野において主導的な役割を果たしている

この指標の上位 10 カ国は、すべて高所得経済圏に属しています (ボックス表 1)。これら 10 の経済圏におけるトップ大学は、産学連携の促進とグローバルに連携した大学の形成において特に優れています。上位 10 経済圏内の主要大学所在地の多くは、同時に主要なイノベーション・クラスターの拠点でもあります。例えば、深セン-香港-広州 (1 位)、パリ (12 位)、シンガポール (16 位) などが挙げられます (クラスターのランキング参照)。

新興経済圏は強い潜在力を示す

高中所得経済圏の中では、中国 (19 位)、南アフリカ (24 位)、トルコ (26 位) の大学が上位を占めています。例えば中国では、大学の急速な拡大と産業における研究開発活動の増加が相まって、協力のための肥沃な土壌が形成されています。低中所得グループにおいて、インドの大学は産業界との連携において優位性を示しており、これは同国の活気あるスタートアップ・エコシステムと研究開発能力を反映しています。一方、ヨルダンとエジプトの大学は、国際的な視野において最高水準の評価を得ており、世界的な学術的連携を誇っています。

このランキングには、低所得経済圏の複数の大学が含まれており、サハラ以南アフリカの 4 カ国 (ウガンダ (63 位)、ルワンダ (73 位)、モザンビーク (84 位)、エチオピア (103 位)) の学術機関も対象となっています。これらの中で、ウガンダは特に国際的な関与の面で際立っており、マケレレ大学が高いスコアを達成しています (ボックス表 2)。

ボックス表 1 産学連携および国際的視野における平均的な実績に基づく上位 10 経済圏

経済圏	順位▲	1 位になった大学	大学の所在地	地域区分
香港 (中国)	1	香港城市大学	香港	東南アジア・東アジア・オセアニア
オランダ王国	2	マーストリヒト大学	マーストリヒト	ヨーロッパ
シンガポール	3	南洋理工工学 (シンガポール)	シンガポール	東南アジア・東アジア・オセアニア
オーストラリア	4	クイーンズランド大学	ブリスベン	東南アジア・東アジア・オセアニア
スイス	5	スイス連邦工科大学 ローザンヌ校	ローザンヌ	ヨーロッパ
米国	6	マサチューセッツ 工科大学	ケンブリッジ	北米
英国	7	オックスフォード大学	オックスフォード	ヨーロッパ
カナダ	7	アルバータ大学	エドモントン	北米
オーストリア	9	インスブルック医科大学	インスブルック	ヨーロッパ
フランス	10	パリ工科大学	パリ	ヨーロッパ

■ ヨーロッパ ■ 北米 ■ 東南アジア・東アジア・オセアニア

出典: 2025 年版グローバル・イノベーション・インデックス・データベース、Times Higher Education (THE) 世界大学ランキング 2025 に基づく。

ボックス表 2 産学連携および国際的視野における平均的な実績に基づく、中所得および低所得グループにおける上位 3 経済圏

所得グループ	経済圏	順位	1 位になった大学	大学の所在地
高中所得	中国	19	北京大学	北京
高中所得	南アフリカ	24	ウィットウォーターズランド大学	ヨハネスブルグ
高中所得	トルコ	26	サバンジュ大学	イスタンブール
低中所得	レバノン	39	ベイルート・アメリカン大学	ベイルート
低中所得	ヨルダン	41	アル・アフリヤ・アンマン大学	アンマン
低中所得	インド	49	インド理工科大学院	ベンガルール
低所得	ウガンダ	63	マケレレ大学	カンバラ
低所得	ルワンダ	73	ルワンダ大学	キガリ
低所得	モザンビーク	84	エドゥアルド・モンドラーネ大学	マプト

■ 東南アジア・東アジア・オセアニア ■ 北アフリカ・西アジア ■ サハラ以南アフリカ ■ 中央アジア・南アジア

出典: 2025 年版グローバル・イノベーション・インデックス・データベース、Times Higher Education 世界大学ランキング 2025 に基づく。

今年、いくつかの経済圏において、イノベーション効率の向上が見られます。スウェーデン、米国、マルタ (27 位)、インド、メキシコ、チュニジア、ナイジェリア、エチオピアは、イノベーション投資と成果の整合性を高め、より大きなリターンを得るためにイノベーション・エコシステムを最適化する面で進展を遂げています。

イノベーション・リーダー (上位 25 経済圏) のほとんどは、指数の全 7 分野においてバランスの取れた強みを引き続き示しています。ただし、中国は例外です。中国はトップ 10 の中で唯一の中所得経済圏ですが、制度・機関の柱 (44 位) では他のすべての柱に比べて依然として低い評価を受けています。トップ 10 以外では、ドイツ (11 位)、日本 (12 位)、フランス (13 位)、香港 (中国) (15 位)、カナダ (17 位)、オーストリア (19 位)、ノルウェー (20 位)、オーストラリア (22 位) は、いずれもインプットとアウトプットの両面で優れた、バランスの取れたエコシステムを有しています (表 3)。

表3 ヒートマップ: 2025年版GIIの総合ランキングとイノベーションの柱別ランキング

経済圏	GII 総合順位	制度・ 機関	人的資本 と研究	インフラ	市場の 洗練度	事業の 洗練度	知識および 技術の産出	創造的 産出
スイス	1	3	6	5	3	5	2	1
スウェーデン	2	12	3	4	9	2	4	2
米国	3	16	13	32	1	1	3	5
韓国	4	20	1	7	5	4	9	4
シンガポール	5	1	2	19	6	3	7	15
英国	6	25	7	23	4	17	5	3
フィンランド	7	5	5	3	11	12	8	16
オランダ王国	8	11	14	30	12	7	10	6
デンマーク	9	2	11	8	16	11	13	9
中国	10	44	20	6	13	8	1	14
ドイツ	11	23	4	28	22	13	11	8
日本	12	22	18	17	10	6	12	18
フランス	13	33	15	18	14	14	15	7
イスラエル	14	36	19	45	15	9	6	28
香港(中国)	15	8	12	21	2	23	30	17
エストニア	16	18	36	10	7	26	19	12
カナダ	17	15	10	24	8	19	18	24
アイルランド	18	10	24	13	36	15	14	21
オーストリア	19	21	9	12	30	16	21	23
ノルウェー	20	9	22	1	21	20	32	22
ベルギー	21	29	16	43	20	10	16	31
オーストラリア	22	13	8	25	17	25	29	27
ルクセンブルグ	23	4	27	57	23	21	53	10
アイスランド	24	14	31	2	25	18	45	19
キプロス	25	49	51	47	34	24	24	11
ニュージーランド	26	6	23	26	24	22	41	29
マルタ	27	45	34	35	65	27	25	13
イタリア	28	55	32	27	52	31	17	20
スペイン	29	53	30	11	33	30	23	26
アラブ首長国連邦	30	7	17	9	19	28	57	35
ポルトガル	31	38	21	42	26	34	36	25
チェコ共和国	32	34	37	33	73	29	20	43
リトアニア	33	19	45	29	32	35	33	48
マレーシア	34	30	46	54	18	38	34	41
スロベニア	35	48	26	20	63	36	27	53
ハンガリー	36	63	33	38	49	37	26	38
ブルガリア	37	81	64	22	35	50	28	32
インド	38	58	54	61	38	64	22	42
ポーランド	39	68	43	51	64	32	42	33
クロアチア	40	65	40	16	54	53	37	44
ラトビア	41	46	47	34	56	47	51	36
ギリシャ	42	60	29	41	57	65	43	40
トルコ	43	100	38	44	41	41	48	30
ベトナム	44	59	70	56	43	45	39	34
タイ	45	76	53	59	27	42	44	39
サウジアラビア	46	26	35	36	31	52	74	57
スロバキア	47	74	52	37	60	57	31	56
カタール	48	17	44	14	48	90	83	60
ルーマニア	49	85	72	31	62	59	40	52
フィリピン	50	61	90	65	53	40	38	61
チリ	51	50	56	49	37	54	63	65
ブラジル	52	107	48	60	71	39	50	50
モーリシャス	53	32	78	84	28	103	97	37
セルビア	54	73	49	39	77	98	35	87
インドネシア	55	39	92	71	50	83	70	58
ジョージア	56	28	61	73	59	69	66	76

< 35 35-70 70-105 ≥ 105

経済圏	GII 総合順位	制度・ 機関	人的資本 と研究	インフラ	市場の 洗練度	事業の 洗練度	知識および 技術の産出	創造的 産出
モロッコ	57	72	84	82	81	68	58	46
メキシコ	58	104	67	77	68	72	54	49
アルメニア	59	70	91	78	83	78	65	47
ロシア連邦	60	131	28	76	76	46	62	55
南アフリカ	61	97	75	67	44	48	71	62
バーレーン	62	27	80	15	66	73	80	96
北マケドニア	63	78	71	53	69	80	52	78
モンテネグロ	64	88	59	50	45	96	75	69
ヨルダン	65	52	86	87	67	58	60	71
ウクライナ	66	108	65	75	85	56	47	67
アルバニア	67	47	99	40	47	61	85	77
ウルグアイ	68	31	93	46	103	115	73	81
オマーン	69	40	73	55	70	63	91	85
イラン・イスラム共和国	70	138	66	98	79	107	46	45
コロンビア	71	86	62	74	75	60	78	72
コスタリカ	72	57	85	63	89	70	55	88
クウェート	73	75	55	52	78	113	88	70
モルドバ共和国	74	91	69	95	88	131	67	63
セーシェル	75	37	94	88	58	89	133	64
チュニジア	76	111	50	116	84	123	56	66
アルゼンチン	77	120	57	80	100	81	79	59
モンゴル	78	98	87	70	95	84	93	54
ウズベキスタン	79	62	81	69	74	77	68	104
ペルー	80	93	42	68	51	120	95	79
カザフスタン	81	77	68	64	93	82	87	82
パナマ	82	84	110	48	91	132	90	68
ジャマイカ	83	64	100	102	115	101	117	51
バルバドス	84	56	89	121	127	51	61	90
ベラルーシ	85	137	39	85	102	86	49	94
エジプト	86	96	101	92	86	93	84	75
ボツワナ	87	42	76	94	39	62	107	116
ブルネイ・ダルサラーム	88	24	60	62	55	95	129	131
セネガル	89	71	97	79	90	112	77	111
レバノン	90	133	63	120	42	71	59	102
ナミビア	91	51	79	96	105	49	123	100
ボスニア・ヘルツェゴビナ	92	121	77	72	80	130	72	99
スリランカ	93	105	109	66	109	121	89	84
アゼルバイジャン	94	41	88	105	72	111	110	108
カーボベルデ	95	43	106	83	106	75	111	109
キルギス	96	119	58	89	82	117	103	89
ドミニカ共和国	97	54	111	81	112	87	113	97
エルサルバドル	98	92	122	113	87	122	104	73
パキスタン	99	127	123	123	101	94	69	80
カンボジア	100	90	114	93	29	133	92	113
ガーナ	101	82	108	109	129	91	86	91
ケニア	102	95	124	119	121	92	64	101
パラグアイ	103	94	119	58	111	104	122	93
ルワンダ	104	35	83	108	131	114	106	120
ナイジェリア	105	126	125	126	128	55	76	83
バングラデシュ	106	109	133	90	96	129	99	86
ネパール	107	113	127	101	61	124	98	103
タジキスタン	108	102	98	99	110	102	81	124
ラオス人民民主共和国	109	83	121	100	46	76	127	125
コートジボワール	110	66	135	106	114	85	128	98
ボリビア多民族国	111	134	41	124	40	106	126	106
ザンビア	112	69	103	91	116	66	125	123
エクアドル	113	117	96	86	113	109	94	110

< 35 35-70 70-105 ≥ 105

経済圏	GII 総合順位	制度・ 機関	人的資本 と研究	インフラ	市場の 洗練度	事業の 洗練度	知識および 技術の産出	創造的 産出
トリニダード・トバゴ	114	80	74	110	98	135	121	127
アルジェリア	115	89	82	97	138	119	112	107
カメルーン	116	103	95	134	126	44	108	118
トーゴ	117	106	107	129	97	136	105	105
ベナン	118	67	118	115	132	99	102	133
ホンジュラス	119	130	113	107	94	126	96	122
マダガスカル	120	128	116	137	117	116	124	74
タンザニア連合共和国	121	79	128	111	125	97	119	126
ミャンマー	122	136	112	104	108	139	120	92
グアテマラ	123	112	134	117	99	118	114	119
ウガンダ	124	87	131	125	123	88	118	121
マラウイ	125	101	138	133	122	33	101	137
ブルキナファソ	126	110	105	139	104	128	100	128
ブルンジ	127	116	104	128	118	108	138	112
モザンビーク	128	124	130	103	119	127	131	117
ジンバブエ	129	132	137	132	136	74	116	95
ニカラグア	130	135	129	118	92	67	115	135
モーリタニア	131	99	115	114	130	110	134	134
レソト	132	115	102	112	107	137	136	136
ギニア	133	118	120	127	137	100	135	114
エチオピア	134	122	139	130	133	134	82	129
マリ	135	114	126	131	124	79	132	138
ベネズエラ・ボリバル共和国	136	139	25	138	135	105	137	115
コンゴ	137	129	117	135	139	43	130	132
アンゴラ	138	123	132	122	120	138	139	130
ニジェール	139	125	136	136	134	125	109	139

< 35 35-70 70-105 ≥ 105

注記: 濃い緑色のセルは第4四分位(上位1~34位)に対応し、薄い緑色は第3四分位(35~69位)、薄い青色は第2四分位(70~104位)、濃い青色は第1四分位(105~139位)に対応します。

出典: グローバル・イノベーション・インデックス・データベース、WIPO、2025年

下位ランクの経済圏の中でも、個々のイノベーションの柱において特に優れた実績を上げている国々がいくつか存在します。ルワンダ(総合順位104位)は制度・機関(35位)で特に優れた成績を収めています。一方、キルギス(96位)は総合順位と比較して人的資本と研究(58位)においてははるかに高い評価を得ています。パラグアイ(103位)はインフラ(58位)で良好な順位を獲得し、カンボジア(100位)は市場の洗練度(29位)において確固たる順位を維持しています。事業の洗練度において、ナミビア(91位)とナイジェリア(105位)はともに良好な成績を収めています(それぞれ49位と55位)。フィリピン(総合50位)とイラン・イスラム共和国(70位)は、知識および技術のアウトプットにおいて比較的良好的な成績を収めています(それぞれ38位と46位)。一方、モンゴル(78位)は創造的なアウトプット(54位)において高い評価を得ています。これらの多様な強みは、各経済圏が総合的なイノベーション・パフォーマンスと世界的な順位を向上させるために活用できる貴重なイノベーション資産です。

世界の各地域のイノベーション

より強力なイノベーション成果に牽引され、中央アジア・南アジアが中南米・カリブ海をわずかに上回る一方、サハラ以南アフリカでは有望な進展が見られる

中央アジア・南アジアが、中南米・カリブ海を初めて上回りました。これは、各地域内の全経済圏の非加重平均GIIスコアに基づく地域別GIIランキングにおける結果です。北米とヨーロッパが引き続きリードし、東南アジア・東アジア・オセアニアが続き、さらに北アフリカ・西アジアが続きます。最も顕著な変化は、中央アジア・南アジアと中南米・カリブ海の間で生じています。この変化は画期的な出来事であり、主に中央アジア・南アジアのイノベーション成果における優位性によるものです。同地域は現在、平均スコアにおいて中南米・カリブ海を上回っています。一方、中南米・カリブ海は、イノベーションの投入面では依然としてリードしていますが、その差は縮まりつつあります。

中央アジア・南アジアの経済パフォーマンスは、インド(38位)、ウズベキスタン(79位)、カザフスタン(81位)といった国々によって支えられており、これらの国々では知識創造、技術的成果、人的資本開発の分野において成果が向上しています。これらの経済圏は、技術の採用と起業家精神の強固な文化を築き上げており、ハイテク輸出額、研究連携、あるいは起業家精神といったイノベーションの成果に焦点を当てることで、たとえ最先端のイノベーション・システムを有していなくとも、ランキングで飛躍的に前進できることを示しています。

一方、多くの中南米・カリブ海の経済圏は、イノベーション・エコシステムにおける連携の弱さや硬直的な制度環境の結果として、依然として「インプットとアウトプットのギャップ」に陥った状態が続いています。この場合、教育や政策改革への投資は行われていますが、こうした投資をイノベーションの成果に結びつけることに苦労しています。

サハラ以南アフリカは、平均的には依然として他の地域に後れを取っているものの、制度・機関と事業の洗練度という柱においては、中央アジア・南アジアおよび中南米・カリブ海をともに上回っています。これは同地域における潜在力の増大と能力の深化を示す明確な兆候です。

以下のセクションでは、世界の7つの地域で起こっている最も重要な経済レベルでの動向について、その概要を説明しています。

北米

北米は、2025年現在も世界で最もイノベーションが進んでいる地域です。米国とカナダで構成されるこの地域は、総合的なイノベーション能力と成果の面で、他の世界の地域に対し引き続き大きな優位を維持しています。

カナダは2025年に17位となり、前年比で3つ順位を下げました。この後退にもかかわらず、カナダはイノベーション・インプットにおいて際立った存在であり、世界13位に位置づけられています。これは、強固な制度的枠組み、質の高い教育・研究基盤、そして活気あるVCエコシステムに支えられているためです。カナダは、市場の洗練度(8位)、大学と産業界の共同研究開発(6位)、後期段階のVC取引(8位)において、上位にランクインしています。そのイノベーション・エコシステムは、世界トップクラスの大学と活気ある企業によって支えられています。一方、カナダの課題としては、労働生産性成長率(101位)が低いこと、意匠出願件数(95位)が少ないこと、商標出願件数(85位)が少ないこと、そしてハイテク輸出額(37位)が同国と同等の国々と比較して控えめであることが挙げられます。しかしながら、トロント、モントリオール、バンクーバーに3大イノベーション・クラスターを有し、無形資産集約度(17位)およびソフトウェア支出(7位)が比較的良好なカナダは、依然として活力あるイノベーションのリーダーであり、アウトプット向上の余地を残しています。

ヨーロッパ

ヨーロッパは、GIIのトップ25にランクインする経済圏の数において、依然として世界をリードする地域であり、このエリートグループには15の経済圏が含まれています。そのうち6つはトップ10に入っています。上位国の大半は順位を維持している一方、欧州39経済圏のうち13が2025年に順位を上げており、昨年の9カ国から顕著な増加となりました。具体的には、デンマーク(9位)、アイルランド(18位)、ノルウェー(20位)、ベルギー(21位)、マルタ(27位)、リトアニア(33位)、ブルガリア(37位)、ポーランド(39位)、クロアチア(40位)、ラトビア(41位)、ギリシャ(42位)、モンテネグロ(64位)、アルバニア(67位)となります。ノルウェーはトップ20、クロアチアはトップ40、アルバニアはトップ70に入っています(図2)。

ベルギーは順位を3つ上げ、地域内で最も大きな躍進の1つを遂げています。研究員数(7位)の基盤が非常に強固であり、研究開発総支出額(6位)も高い水準にあり、これは2023年のGDPの3.3%に相当し、特に企業からの貢献が顕著です(企業が実施・資金提供した研究開発総支出(GERD)の順位はそれぞれ6位と7位)。また、大学と産業界の連携および国際的な関与(14位)において高い評価を得ており、研究人材(11位)および知識集約型雇用(11位)においても同様に高い順位を維持しています。

東欧諸国およびバルト3国は、イノベーションの分野において着実に地歩を固めており、複数の国で顕著な改善が見られます。特にアルバニア、クロアチア、リトアニアの3カ国が最も大きな進展を遂げています。エストニア(16位)、リトアニア、ラトビアは、ますます機敏でデジタル技術に精通した経済圏としての立場を確立しつつあります。エストニアはデジタル分野の先駆者として、ICTインフラ、電子政府、オンラインサービスにおいて、常に世界最高水準に位置づけられています。

リトアニアは活気あるスタートアップ・シーンで際立っています。ベンチャー・キャピタル受領額(20位)において良好な実績を示し、GDPに対するユニコーン企業の企業価値(1位)は世界最高です。これは、企業をグローバルに拡大する可能性を秘めた初期段階の資金調達環境を示しています。リトアニアはまた、修士号以上の学位を有する女性被用者数(3位)および知識集約型雇用

(16位)においても優れています。同国のモバイルアプリ開発(8位)および知識影響力(13位)における実績は、デジタル分野とイノベーション分野における成果の拡大をさらに示しています。

ラトビアは、熟練した労働力を活用し、欧州のバリューチェーンへの統合を推進することで発展を続けており、同時にインフラ分野でも堅調な実績を維持しています。ブルガリア(37位)とポーランド(39位)も着実に進展を遂げています。ポーランドは依然としてこの地域で最も多様性に富んだ経済圏の1つであり、デジタル技術とクリエイティブ分野の輸出を拡大し続けています。

ヨーロッパもまた、多様なイノベーション・クラスター群を擁しています。ドイツはミュンヘン、ベルリン、シュトゥットガルトを含む7つのクラスターを有してトップを走っています。英国においては、4つのクラスターが存在しますが、ケンブリッジとオックスフォードは、高い科学的生産性と研究の集約度において際立っています。その他の強みを持つ都市としては、ヘルシンキ(フィンランド)、アイントホーフェン(オランダ)、ストックホルム、コペンハーゲン、ダブリン(クラスターのセクション)などが挙げられます。しかしながら、欧州のクラスターは一般的に米国に比べ順位が低い傾向にあります。これは、欧州のVCエコシステムが米国ほど活発ではないためです。

東南アジア・東アジア・オセアニア

2025年時点で、この地域の6つの経済圏が世界のイノベーション・リーダーに名を連ねています。これは2024年より1つ少ない数となります。韓国(4位)、シンガポール(5位)、中国(10位)、日本(12位)、香港(中国)(15位)、オーストラリア(22位)です。

このグループは引き続き世界のイノベーション指標で優位性を示しています。韓国は企業による研究開発と企業内研究員数で首位を維持し、シンガポールはユニコーン企業の企業価値、ハイテク製造業、GitHubコミット数において世界1位を獲得しています。中国は商標出願件数、実用新案出願件数、意匠出願件数において1位を維持し、新たに知識および技術のアウトプットの柱で総合首位を獲得しました。日本は生産・輸出の複雑性で首位、香港(中国)はハイテク輸入額で1位、オーストラリアは規制環境の質で2位となっています。

当該地域で対象となった17の経済圏のうち、9つが2025年に順位を上げました。特に香港(中国)(15位)、フィリピン(50位)、カンボジア(100位)、ミャンマー(122位)が最も大きな進歩を遂げました。

フィリピンは50位(図2)に進出し、低中所得グループの中で3位(表1)に位置づけられています。

カンボジア(100位)は金融包摂と融資へのアクセスにおいてトップを走っています。マイクロファイナンス機関による融資額では世界1位、信用供与では2位、民間セクターに対する国内与信額では10位となっています。その他の強みとしては、外国直接投資流入額(13位)、総資本形成(15位)、労働生産性成長率(19位)が挙げられ、カンボジアの変革と資本投資の勢いを裏付けています。

ラオス人民民主共和国(109位)も順位を上げています。

ボックス 3 ASEANのイノベーション・パフォーマンス - 成果と世界的な収束

東南アジア諸国連合 (ASEAN) は、世界のイノベーションにおいて存在感を高めています。シンガポール (5 位) を筆頭に、マレーシア (34 位)、ベトナム (44 位)、タイ (45 位)、フィリピン (50 位) も高い成績を収めています。さらに、ベトナムとインドネシア (55 位) は、それぞれ 15 年連続および 4 年連続で、GII のイノベーション・オーバーパーフォーマーとしての地位を維持しています。

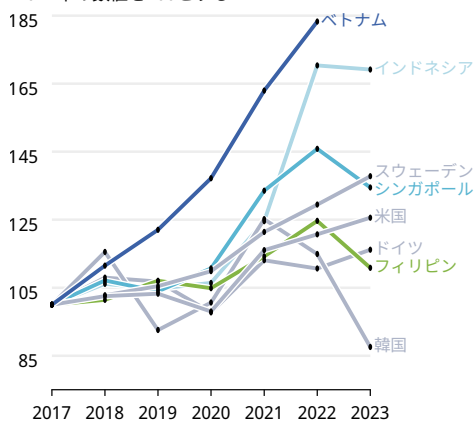
2000 年から 2023 年にかけて、ASEAN の研究開発支出は年平均成長率 (CAGR) 8.5% で増加し、実質ベースで約 600 億米ドルに達しました。ASEAN のハイテク輸出額は 2015 年から 2022 年にかけて 2 倍超に増加し、年間 9.7% の成長率を示しました。また、2023 年にはグローバル・ブランドの価値が地域 GDP の 7% に達し、民間セクターの高度化が進んでいることを示しています。2021 年に調達したベンチャー・キャピタル資金が 134% 急増したことも、ASEAN のスタートアップ・エコシステムの拡大を浮き彫りにしています。

経済レベルにおいて、主要指標 (ハイテク輸出額、ハイテク製造業、特許出願件数、科学技術論文数) は、ASEAN 諸国と世界のイノベーション・リーダーとの間の格差が縮小していることを示しています (ボックス図 1)。ベトナムは、特にハイテク輸出額、ハイテク製造業、出版物において、急速な進展を見せています。フィリピンは特許と科学的な成果において進展を見せていますが、シンガポールはハイテク製造業において依然として強みを発揮しています。

ボックス図 1 イノベーション格差の解消: ASEANと世界のイノベーション・リーダーにおける主要GII指標の成長 (2015年~2024年)

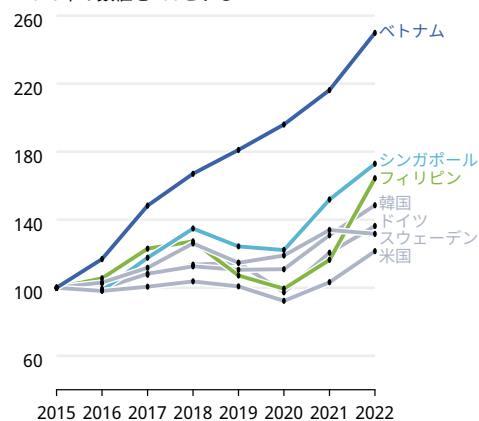
ハイテク輸出額

2017年の数値を100とする



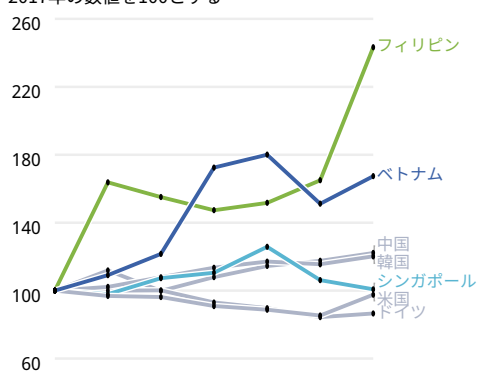
ハイテク製造業

2015年の数値を100とする



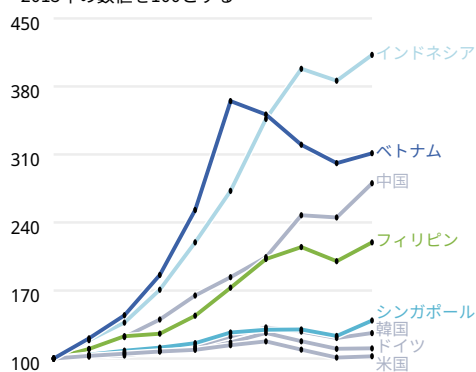
特許出願

2017年の数値を100とする



科学技術論文数

2015年の数値を100とする



注記: 濃い灰色の線は、各指標において選ばれたイノベーション・リーダーを表しています。ハイテク輸出額には、欧州統計局 (Eurostat) が SITC Rev.4 および OECD 分類を用いて定義する、研究開発集約度の高い技術製品が含まれます。主要な産業分野には、航空宇宙、化学・兵器、コンピューター、電子機器、電気・非電気機械、医薬品、科学機器、通信などが含まれます。ハイテク輸出額は、10 億米ドル単位で計測されます。ハイテク製造業とは、OECD の技術集約度定義に基づくハイテクおよび中高度技術 (MHT) の生産を指します。この定義自体は、国際標準産業分類 (ISIC) 第 4 版および第 3 版に基づいています。ハイテク製造業は現地通貨で評価されます。特許出願とは、各国または地域の特許庁に提出される国内特許出願を指します。

出典: WIPO、グローバル・イノベーション・インデックス (GII) データベース (国連商品貿易統計データベースに基づく)、国連工業開発機関 (UNIDO)、産業統計データベース INDSTAT 2 2023 および INDSTAT 4 2023、世界知的所有権機関 (WIPO)、知的財産統計、クラリベイト、Web of Science。

中央アジア・南アジア

インドは中央アジア・南アジアにおけるイノベーションを牽引し続けており、2025年には順位を1つ上げて38位となりました。依然として、低所得経済圏の中でも最も高い実績を維持しています(表1)。その強みは、その規模、起業活動、そして科学的知見を商業的成果へと結びつける能力の高まりにあります。インドはICTサービス輸出額において1位であり、活発なVC環境を背景に強固なビジネス環境を有しています。後期段階のVC取引では4位、スタートアップおよびスケールアップ企業向け資金調達では9位にランクインしています。インドのユニコーン企業の企業価値(11位)および増加する無形資産集約度(8位)は、同国が知識と技術主導型の経済であることを反映しています。しかしながら、依然として課題が残っています。インドはインフラ整備と研究開発費の支出において依然として後れを取っており、2020年の研究開発支出はGDPのわずか0.65%に相当するにすぎません。これはさらなる投資の必要性を反映しています。

この地域では他に3つの経済圏が順位を上げました。初めてトップ80入りしたウズベキスタン(79位)、キルギス(96位)、ネパール(107位)です。ウズベキスタンは、イラン・イスラム共和国(70位)に次いで地域内3位を維持しています。

キルギスは教育支出において顕著な実績を示しており(世界5位)、低炭素エネルギーの使用においても上位15カ国(14位)にランクインしており、環境の持続可能性における強みを示しています。ネパールはマイクロファイナンス機関による融資額において、世界1位です。また、信用供与(7位)および総資本形成(11位)においても良好な実績を示しており、資金調達と資本投資へのアクセスの高さが示唆されます。

北アフリカ・西アジア

北アフリカ・西アジアでは、2025年にイノベーションの勢いの高まりが見られ、14の経済圏が順位を上げました。

イスラエル(14位)は引き続き地域をリードし、順位を1つ上げ、世界のトップ15イノベーション経済圏における地位を強化しています。研究開発支出総額、ベンチャー・キャピタル受領額、ICTサービスの輸出額、ユニコーン企業の企業価値など、複数の重要な指標においてトップクラスであり、これは、活気あるイノベーション・エコシステムを反映しています。

中東におけるイノベーション・パフォーマンスも着実に進展しており、8の経済圏がランクを上げています。アラブ首長国連邦は2ランク上昇して過去最高の30位を記録し、上昇傾向を示しています。バーレーン(62位)、ヨルダン(65位)、オマーン(69位)が最も大きな進歩を遂げ、トップ70入りを果たしました。サウジアラビア(46位)とカタール(48位)はそれぞれ1つ順位を上げています。

キプロス(25位)は2つ、ジョージア(56位)は1つ順位を上げました。モロッコ(57位)とアルメニア(59位)は顕著な進歩を遂げ、トップ60に入りました。一方、チュニジア(76位)はトップ80入りしています(図2)。

モロッコは2025年に9ランク上昇し、バーレーンに次いで同地域内における最も顕著な改善の1つを示しています。そのイノベーション・パフォーマンスは、伝統的な産業分野から、より多様化され付加価値の高い経済へと明確にシフトしていることを反映しています。今後、モロッコが直面する主な課題は、研究開発への投資をさらに拡大し、イノベーションの連携と基盤を強化することです。モロッコはイノベーション・オーバーパフォーマーであることが証明されていますが、さらなる進展は、これまでのイノベーションの成果を拡大し持続させるための、投資の強化にかかっていると言えるでしょう。

レバノン (90 位) とアゼルバイジャン (94 位) も順位を上げており、今年はそれぞれ 4 ランクと 1 ランク上昇しました。

中南米・カリブ海

中南米・カリブ海では、2025 年に成長の勢いが鈍化し、ほとんどの経済圏で後退または停滞が見られました。この地域における持続的なイノベーションのインプットとアウトプットのギャップは、研究機関と民間セクターとの連携強化、イノベーション・ガバナンスの改善、そしてより効果的な資金調達メカニズムの必要性を浮き彫りにしています。

地域別ランキングでは、チリ (51 位) に続いて、ブラジル (52 位) とメキシコ (58 位) がランク入りしています。

チリは、高等教育就学率 (5 位)、株式時価総額 (17 位)、外国直接投資流入額 (22 位) で上位を占めています。ブラジル (52 位) は順位を 2 つ下げましたが、地域のイノベーション生産能力を支える中核的存在であり続けており、知識および技術のアウトプット (50 位) と創造的なアウトプット (50 位) において地域内で最高位を維持しています。また、教育支出額 (23 位) およびグローバル企業の研究開発投資 (24 位) においても、世界トップ 25 にランクインしています。ブラジルは、その大規模な国内市場規模 (7 位) を活かし、後期段階の VC (16 位) を誘致しており、ハイテク輸入額 (19 位) および ICT サービス輸入額 (17 位) において高い順位を占めています。これは、先進技術とデジタルサービスに対する需要が存在することを示しています。ブラジルは、中南米・カリブ海において、その経済発展の水準を上回るイノベーション実績を上げている唯一の経済圏であり、2021 年以降 5 年連続でこの地位を維持しています (表 2)。

メキシコ (58 位) も順位を 2 つ下げましたが、貿易関連のイノベーション指標では依然として高い水準を維持しています。クリエイティブ財の輸出額では 6 位に位置し、ハイテク輸入額 (16 位)、ハイテク輸出額 (13 位)、ハイテク製造業 (13 位) において高い実績を示しています。これは、同国の産業基盤と輸出主導型モデルの持続的な強さを反映したものです。メキシコシティが初めてイノベーション・クラスターのトップ 100 入りし、79 位で初登場しました。

今年は後退しているものの、ウルグアイ (68 位)、コロンビア (71 位)、コスタリカ (72 位) が、この地域のトップ 3 に続いています。ウルグアイは、制度・機関 (31 位) およびインフラ (46 位) において、引き続き上位を維持しています。コロンビアは、企業の研究開発およびスタートアップ育成における新興の拠点となっています。ハイテク輸入額 (15 位)、ユニコーン企業の企業価値 (24 位) において、引き続き高い実績を維持しています。パナマ (82 位)、ドミニカ共和国 (97 位)、エルサルバドル (98 位) は、2025 年のランキングにおいて安定した位置を維持しています。

パナマは、貿易、投資、サービス分野のイノベーションを支援するため、戦略的な地理的位置と強固な総合インフラを継続的に活用しています。比較的強い金融セクターを有していることが強みであり、これが外国からの投資を誘致するのに役立っています。労働生産性成長率 (18 位) は改善傾向にあり、ハイテク輸出額 (21 位) においては競争力のある実績を上げています。また、創造経済においても有望であり、クリエイティブ財およびサービス (24 位) およびクリエイティブ財の輸出額 (12 位) において測定可能な成果を挙げており、文化・デジタル産業基盤の成長を反映しています。研究能力には依然として限界があるものの、サービス業を基盤とした経済がイノベーションの土台を提供しています。

ベネズエラ・ボリバル共和国は、2016 年 (当時 120 位) 以来初めて GII の調査対象に復帰し、136 位に入りました。

サハラ以南アフリカ

サハラ以南アフリカでは着実な進展が続いており、10の経済圏が順位を向上させ、複数の経済圏が地位を固めています。モーリシャス(53位)は、引き続きこの地域で最も高い実績を維持しています。VC投資家数では上位(5位)を維持し、制度・機関(32位)、市場の洗練度(28位)、創造的なアウトプット(37位)においても地域トップクラスの順位を保っています。地域別ランキングでは、南アフリカ(61位)、セーシェル(75位)、ボツワナ(87位)、セネガル(89位)が続いており、ボツワナを除くすべての国が順位を上げています。セーシェルは2025年にグローバル・インベストメント・インデックス(GII)の調査対象に復帰し、2015年以来初めてランキングに再登場し、トップ80にランクインしました。

ナミビア(91位)は、サハラ以南アフリカにおいて最も大きな改善を記録し、11ランク上昇しました。教育支出額(1位)において世界トップであり、外国直接投資流入額(10位)、大学と産業界の共同研究開発(38位)、公的研究機関と民間企業の共同発表(31位)において世界トップ40に入っています。これは、新たな研究パートナーシップの形成と研究能力の拡大を反映したものです。南アフリカ(61位)も2025年に進歩を遂げ、人的資本と研究(75位)、インフラ(67位)において引き続き地域のリーダーとしての地位を維持しています。ICTサービス輸入額(18位)とグローバル・ブランドの価値(23位)において高い実績を示しており、その成長著しいブランディング・エコシステムを裏付けています。

セネガルは順位を3つ上げ、ユニコーン企業の企業価値(10位)、外国直接投資流入額(8位)、マイクロファイナンス機関による融資額(9位)において顕著な強みを示しており、スタートアップ企業と資本流入の両方において基盤が拡大していることが示唆されています。ナイジェリア(105位)は、2025年にサハラ以南アフリカで最も急成長を遂げる国の1つとして浮上しています。ユニコーン企業の企業価値において世界1位であり、知識集約型雇用(35位)、ハイテク輸入額(8位)、後期段階のVC取引(36位)においても良好な実績を出しており、知識経済と起業家エコシステムの深化が進んでいることを示しています。カメルーン(116位)も進歩を遂げており、科学・工学分野の卒業生数(17位)においても良好な成績を収めています。

ルワンダ(104位)、マダガスカル(120位)、マラウイ(125位)、セネガル、南アフリカ、ブルンジ(127位)は、イノベーション・オーバーパーフォーマーです。ルワンダは、この地域において予想以上に好調な経済を最も長く維持している国であり、13年間にわたりオーバーパフォーマンスを続けています。

データ収集の改善により、今年は以下の5つのサハラ以南アフリカ諸国が新たにGIIの調査対象となります。セーシェル、マラウイ(125位)、レソト(132位)、ギニア(133位)、コンゴ(137位)。

終わりに

2025年版グローバル・イノベーション・インデックスは、変革の途上にある世界の姿を明らかにしています。そこではイノベーションが競争力と回復力の重要な原動力であり続けていますが、その性質と地理的分布は急速に進化しつつあります。上位のイノベーション・リーダーのグループは概ね安定している一方で、世界的なイノベーションの情勢は多様化が進んでおり、いくつかの中所得経済圏が着実な進展を遂げ、地域ごとの力学も変化しています。

今年の調査結果からは、以下の3つの主要なメッセージが浮かび上がってきます。

第1は、イノベーションへの幅広い参加です。イノベーション能力は、地域や所得グループを超えて拡大しています。すべての経済圏が順位を上げることは不可能ではありませんが、中央アジア・

南アジアからサハラ以南アフリカ、中東、東ヨーロッパに至るまで、いくつかの経済圏ではより強いイノベーション・パフォーマンスが示されています。これらの経済圏は、投資、教育、そしてビジネスの活力を通じてイノベーションを強化しています。インド、モロッコ、フィリピンなどの国々は、焦点を絞った戦略により、時間をかけてイノベーション能力を構築できることを示しています。

今年の顕著な進展として、中央アジア・南アジアの台頭が挙げられます。同地域は、地域別GIIランキングにおいて初めて中南米・カリブ海を上回りました。この変化は、インド、ウズベキスタン、カザフスタンにおける強力なアウトプットパフォーマンスによるものです。サハラ以南アフリカでは、ナイジェリアやナミビアなどの国々が顕著な進展を遂げており、地域全体として特定の組織や事業の洗練度指標において他地域を上回る成果を上げています。

北アフリカ・西アジアにおいても、イノベーションの勢いの高まりが見られ、14の経済圏が順位を上げました。モロッコとバーレーンは急成長国であり、一方イスラエルとトルコは研究開発と無形資産において引き続き主導的な立場を維持しています。東欧では、クロアチア、ラトビア、リトアニア、アルバニアなどの国々が、教育への投資、デジタル・トランスフォーメーション、スタートアップ・エコシステムに関連してランクを上げています。

第2に、経済がイノベーションに取り組む方法には多様性があります。一部の国々はハイテク製造業やデジタルサービス分野の強みを活用し、他の国々はクリエイティブ業界、天然資源の連携、あるいは地域市場の動向に注力しています。この多様性は、イノベーションの成功への道は1つではないことを意味しています。むしろ、各国は自国の独自の経済構造や能力に合わせてイノベーション・モデルを適応させる方法を見出しています。

北米とヨーロッパは、研究、VC、そして影響力の大きい科学的成果を支える強固なエコシステムに支えられ、世界的に最も革新的な地域であり続けています。中国がトップ10入りを果たした目覚ましい軌跡は、研究開発への持続的な投資と技術的リーダーシップを反映しています。インドは、強力なICTサービス輸出、スタートアップの活気、そして大規模な国内研究開発基盤を通じて、その役割を強化しています。トルコ、ベトナム、タイは、2025年に後退があったにもかかわらず、貿易、産業基盤、ハイテク製造業の強みを背景に、いずれもトップ40に一步近づいています。フィリピンは、ハイテク輸出額とICTサービスにおける世界的なリーダーシップにより、順位を上げています。

第3に、イノベーション・エコシステムは、ますます機敏性と対応力によって形作られるようになっていきます。新しい技術を取り入れ、スタートアップを支援し、セクター間の連携を強化することで、迅速に適応できる経済圏が勢いを増しています。イノベーションはもはや、科学への長期的な投資のみに留まるものではなく、デジタル・トランスフォーメーションや持続可能性を含む、世界的な変化に対応する行動力をも指すものとなりました。世界が経済的な不確実性を乗り越える中で、様々な分野や国境を越えて適応し、革新する能力は、今後も決定的な優位性であり続けるでしょう。

それでも、障壁は残ります。長期的なイノベーション能力は、依然として主要な投資に依存しています。さらに、多くの経済圏では、イノベーション・エコシステムの拡大、研究の商業化、そしてグローバル・バリューチェーンへのより完全な統合に苦労しています。

政策立案者、ビジネスリーダー、学術機関は、イノベーションの潜在能力を最大限に引き出すため、ともに断固たる行動を取らなければなりません。1点目に、最先端の知識とその普及を支える長期的な研究開発および教育システムへの投資が不可欠です。2点目は、研究を経済的価値へと転換するため、大学と民間セクターとのより深い連携を推進することです。3点目は、特に開

発途上地域におけるスタートアップ企業や急成長企業に対し、資金調達へのアクセスを確保することです。最後に、測定システムおよびデータシステムを改善し、イノベーション・パフォーマンスをより適切に追跡するとともに、エビデンスに基づく政策立案を導くことが重要です。

世界経済が持続可能性と成長に関する多くの課題に直面する中、イノベーションはそれらに対応するための最も強力な手段であり続けています。GIIは今後も、あらゆる分野および地域における進捗の測定と協力の促進のためのプラットフォームとしての役割を果たしていきます。

参考資料

Arundel, A., S. Athreye and S. Wunsch-Vincent (eds) (2021). 「21 世紀のイノベーションのための公的研究の活用: 知識移転政策の国際評価 (Harnessing public research for innovation in the 21st Century: An International Assessment of Knowledge Transfer Policies)」。ケンブリッジ: ケンブリッジ大学出版局 (知的財産権、イノベーション、経済開発)

Perkmann, M., V. Tartari, M. McKelvey, E. Autio, A. Broström, P. D'Este, R. Fini, A. Geuna, R. Grimaldi, A. Hughes, S. Kabel, M. Kitson, P. Llerena, A., Salter and M. Sobrero (2013). 学術的関与と商業化: 大学と産業界の関係に関する文献のレビュー。 *Research Policy*, 42(2), 423–442. Doi: <https://doi.org/10.1016/j.respol.2012.09.007>.

WIPO (2024)。地方レベルにおけるイノベーション測定の実現: WIPO ツールキット。著者: Gaétan de Rassenfosse 氏 (EPFL) および Sacha Wunsch-Vincent 氏 (WIPO)。ジュネーブ: 世界知的所有権機関 (World Intellectual Property Organization) Department for Economics and Data Analytics (WIPO 経済・データ分析部)。 www.wipo.int/publications/en/details.jsp?id=4746 でご覧いただけます。

